

(様式第 10)

獨医大病庶庶発第 5 6 号
平成 2 9 年 1 0 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 寺野 彰 (印)

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 3 4 0 - 0 0 4 2 埼玉県草加市学園町 1 番 1 号
氏 名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

獨協医科大学病院

3 所在の場所

〒 3 2 1 - 0 2 9 3 栃木県下都賀郡壬生町北小林 8 8 0 電話 (0 2 8 2) 8 6 - 1 1 1 1

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	○有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科 ○2消化器内科 3循環器内科 4腎臓内科	
○5神経内科 6血液内科 7内分泌内科 8代謝内科	
9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ○11リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	○有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ○1呼吸器外科 2消化器外科 ○3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ○6心臓血管外科 7内分泌外科 ○8小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○1精神科 ○2小児科 ○3整形外科 ○4脳神経外科 ○5皮膚科 ○6泌尿器科 ○7産婦人科 8産科 9婦人科 ○10眼科 11耳鼻咽喉科 ○12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ○15麻酔科 ○16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	○有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ○1小児歯科 ○2矯正歯科 ○3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1心臓・血管内科 2血液・腫瘍内科 3循環器・腎臓内科 4内分泌代謝内科 5呼吸器・アレルギー内科 6形成外科・美容外科 7頭頸部・耳鼻咽喉科 8リハビリテーション科 9病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	床	床	床	1,125床	1,167床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	560人	5.4人	565.4人	看 護 補 助 者	104人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	18人	0人	18人	理 学 療 法 士	21人	臨 床 検 査 技 師	93人
薬 剤 師	83人	0人	83人	作 業 療 法 士	5人	検 査 衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	40人	1.3人	41.3人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	986人	63.2人	1,049.2人	臨 床 工 学 士	20人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	14人
准 看 護 師	1人	3.2人	4.2人	栄 養 士	12人	そ の 他 の 技 術 員	9人
歯 科 衛 生 士	5人	2.4人	7.4人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	253人
管 理 栄 養 士	22人	0人	22人	診 療 放 射 線 技 師	68人	そ の 他 の 職 員	77人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	36人	眼 科 専 門 医	22人
外 科 専 門 医	45人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	13人
精 神 科 専 門 医	7人	放 射 線 科 専 門 医	14人
小 児 科 専 門 医	18人	脳 神 経 外 科 専 門 医	14人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	20人
泌 尿 器 科 専 門 医	16人	麻 酔 科 専 門 医	21人
産 婦 人 科 専 門 医	16人	救 急 科 専 門 医	18人
		合 計	269人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (平石 秀幸) 任命年月日 平成26年4月1日

「副院長兼医療安全管理部副部長」 (平成20年2月1日～平成26年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	994.4人	13.0人	1,007.4人
1日当たり平均外来患者数	2,032.6人	86.3人	2,118.9人
1日当たり平均調剤数			3,924.1剤
必要医師数			226人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			50人
必要(准)看護師数			575人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,181m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	17床	心電計	○有・無
			人工呼吸装置	○有・無	心細動除去装置	○有・無
			その他の救急蘇生装置	○有・無	ペースメーカー	○有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	376m ² 台	病床数	27床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	54m ²			
化学検査室	615m ²		(主な設備) 全自動生化学分析装置JCA-BM6070 // JCA-BM9130			
細菌検査室	41.63m ²		(主な設備) 全自動細菌検査分析装置マイクロスキャンシステム Toxinometer MT-6500			
病理検査室	266m ²		(主な設備) 自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスタット 顕微鏡写真撮影装置、密閉式自動固定包埋装置 自動染色装置、クリーンベンチ、安全キャビネット、 感染防止対策用切り出し台、感染防止機能付写真撮影台、 遺伝子関連機器			
病理解剖室	80m ²		(主な設備) 感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置 高圧蒸気滅菌器、自動ホルマリン作成装置			
研究室	21,154m ²		(主な設備) マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム 次世代シークエンサーIon Protonシステム			
講義室	288m ²		室数	1室	収容定員	238人
図書室	5,894m ²		室数	1室	蔵書数	250,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	64.5%	逆紹介率	51.0%
算出根拠	A：紹介患者の数		19,939人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		18,266人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,180人
	D：初診の患者の数		35,819人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
十川 康弘	上都賀総合病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・○無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊地法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・○無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 取締役 主筆		医療を受ける者の代表者	有・○無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
平石 秀幸	獨協医科大学 内科学（消化器） 教授		医療に関する学識経験者	○有・無	その他
秋山 一文	獨協医科大学 精神生物学 教授		医療に関する学識経験者	○有・無	その他

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	○有・無
委員の選定理由の公表の有無	○有・無
公表の方法 ホームページにより公開 (http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/info/68/2954.html)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	34人
前眼部三次元画像解析	202人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断	2人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	脳死肺移植	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 脳死ドナーより摘出・搬送した肺を登録してある慢性呼吸不全症例に移植したもの			
医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	148人
当該医療技術の概要 総胆管結石症に対して結石を除去するため行う内視鏡治療			
医療技術名	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 肝臓癌に対して超音波ガイド下に穿刺し電氣的に焼灼、壊死に至らしめる治療			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 活動期潰瘍性大腸炎やクローン病患者に対する顆粒球や白血球成分除去療法			
医療技術名	クローン病患者に対するバルーン小腸内視鏡	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 バルーン小腸内視鏡を用いてクローン病の診断や狭窄部治療、治療効果判定を行う			
医療技術名	劇症肝炎に対する血液浄化療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 劇症肝炎患者に対して行う血漿交換や血液濾過透析療法			
医療技術名	エクリズマブによるギラン・バレー症候群に対する抗補体治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 エクリズマブによるギラン・バレー症候群に対する抗補体治療			
医療技術名	20 channel 脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 20 channel 脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療			
医療技術名	TAVI	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 経皮的カテーテル大動脈弁置換術			
医療技術名	VAD	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症心不全に対する補助人工心臓植え込み術			
医療技術名	負荷心エコー法	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 エルゴメーターによる運動負荷前後、または薬剤負荷前後の心臓超音波検査で、心臓壁運動や弁膜症の状態を評価する			

医療技術名	経食道心エコー法	取扱患者数	251人
当該医療技術の概要 通常的心エコーと異なり、食道に探触子を挿入して心臓を裏側から観察するもの。コントラスト剤を用いて卵円孔開存や肺動静脈瘻の診断も行っている			
医療技術名	エラストグラフィ検査	取扱患者数	1,704人
当該医療技術の概要 組織の弾性などを評価するもので、肝臓や乳腺の腫瘍において良・悪性診断を行うもの。このほか、脂肪肝などの評価にも有用な検査である。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	119人
当該医療技術の概要 光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。 こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待できる。			
医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察	取扱患者数	66人
当該医療技術の概要 血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である。			
医療技術名	IVUSを用いた冠動脈形成術	取扱患者数	310人
当該医療技術の概要 現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了決定に必須なモダリティである。特に我々の使用するバーチャルヒストロジーIVUSは冠動脈形成術後の予後予測に有用である。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	217人
当該医療技術の概要 難治性うつ病や治療抵抗性都合失調症に対して筋弛緩薬によって痙攣を抑制した状態でサイマトロンを用いて頭部にパルス波を入力する。			
医療技術名	埋込型除細動器移植術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 自動的に致死性心室性頻拍を感知し高頻度刺激やショックパルスを発生し除細動を行う装置を体内に埋め込むもの。			
医療技術名	血管内超音波検査	取扱患者数	221人
当該医療技術の概要 冠動脈の動脈硬化(石灰化、アテローム硬化、血栓の有無)などについて詳細な評価を行う。			
医療技術名	経皮的冠動脈血栓吸引術	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要 冠動脈内の血栓に対して吸引カテーテル(レスキュー、スロンバスター、パークサージ)にて血栓を吸引除去するもの。			
医療技術名	血漿交換療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 劇症肝炎やギラン・バレー症候群における障害因子を除去するために体外循環を行い血漿を濾過置換する。			
医療技術名	血液吸着療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 膠原病において自己免疫性の障害因子を除去するために体外循環によるカラム吸着療法を行う。 その他、LDL吸着やエンドトキシン吸着などがある。			
医療技術名	心室再同期療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 冠動脈洞および右室にペースメーカーリードを挿入し、左右心室を同時に刺激するペースメーカー装置を体内に埋め込むもの。			

医療技術名	食道癌に対する胸腔鏡下食道切除	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
食道癌に対して完全鏡視下に食道およびリンパ節を切除し、再建も行う。体壁破壊の軽減により、患者の術後回復の促進が期待できる。			
医療技術名	食道癌に対するDCF併用化学放射線療法	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
食道癌に対して非常に効果の高いDocetaxel, Cisplatin, 5-Fluorouracilの3剤併用化学療法に放射線療法を加えることにより高い奏効率と根治性の獲得が期待できる。			
医療技術名	進行胃癌に対するDCS併用化学療法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
進行胃癌に対して従来はあまり行われていなかった化学療法をDocetaxel, Cisplatin, S-1の3剤併用で行うことにより、生存率を延長することが期待できる。			
医療技術名	進行直腸癌に対する術前化学放射線療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
本来は肛門を温存することが難しい下部直腸癌に対して術前に化学放射線療法を行うことによって、切除率を向上させるだけでなく、肛門温存率を向上させることが期待できる。			
医療技術名	肝切除	取扱患者数	126人
当該医療技術の概要			
肝細胞癌、転移性肝腫瘍、肝内胆管癌、肝門部領域胆管癌などの疾患に対して、肝垂区域切除や拡大肝切除を施行している。肝門部領域胆管癌などに対して大量肝切除が必要な場合は、術後肝不全予防として、門脈塞栓術を施行している。			
医療技術名	膵頭十二指腸切除(肝切除付加)	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要			
主に膵頭部癌、遠位部胆管癌、乳頭部癌、十二指腸癌などの疾患に対して施行している。門脈などの脈管侵襲を伴う場合も、血管合併切除や再建も施行している。また、広範囲胆管癌などに対しては、肝切除付加膵頭十二指腸切除も施行している。			
医療技術名	膵体尾部切除	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
主に膵体尾部癌に対して施行している。			
医療技術名	膵全摘術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
主に膵臓癌、膵管内乳頭線癌などの疾患に対して施行している。			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
生体間での肝移植を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
主に肝細胞癌、転移性肝腫瘍に対して、腹腔鏡下肝外側区域切除、部分切除を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下結腸切除	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要			
結腸癌に対して施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要			
直腸癌に対して施行している。			

医療技術名	側方郭清	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
下部直腸癌の側方郭清を腹腔鏡下で施行している。			
医療技術名	内肛門括約筋切除	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
超低位直腸癌に対して、肛門温存術式を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
炎症性腸疾患に対して施行している。			
医療技術名	骨盤内蔵全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
直腸癌がかなり進行し、骨盤内の臓器(ぼうこう、精のう、前立腺、子宮など)が広く癌に冒された患者さんに対して施行している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1人	56	ベーチェット病	102人
2	筋萎縮性側索硬化症	32人	57	特発性拡張型心筋症	154人
3	脊髄性筋萎縮症	4人	58	肥大型心筋症	10人
4	原発性側索硬化症	0人	59	拘束型心筋症	0人
5	進行性核上性麻痺	38人	60	再生不良性貧血	42人
6	パーキンソン病	335人	61	自己免疫性溶血性貧血	4人
7	大脳皮質基底核変性症	11人	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2人
8	ハンチントン病	2人	63	特発性血小板減少性紫斑病	121人
9	神経有棘赤血球症	0人	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0人
10	シャルコー・マリー・トウース病	7人	65	原発性免疫不全症候群	8人
11	重症筋無力症	117人	66	IgA 腎症	12人
12	先天性筋無力症候群	1人	67	多発性嚢胞腎	9人
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	85人	68	黄色靭帯骨化症	4人
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	27人	69	後縦靭帯骨化症	72人
15	封入体筋炎	2人	70	広範脊柱管狭窄症	6人
16	クロウ・深瀬症候群	2人	71	特発性大腿骨頭壊死症	38人
17	多系統萎縮症	49人	72	下垂体性ADH分泌異常症	17人
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	77人	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1人
19	ライソゾーム病	10人	74	下垂体性PRL分泌亢進症	9人
20	副腎白質ジストロフィー	1人	75	クッシング病	0人
21	ミトコンドリア病	6人	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2人
22	もやもや病	29人	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	25人
23	プリオン病	0人	78	下垂体前葉機能低下症	84人
24	亜急性硬化性全脳炎	2人	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	0人
25	進行性多巣性白質脳症	0人	80	甲状腺ホルモン不応症	1人
26	HTLV-1関連脊髄症	0人	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1人
27	特発性基底核石灰化症	2人	82	先天性副腎低形成症	0人
28	全身性アミロイドーシス	7人	83	アジソン病	0人
29	ウルリッヒ病	0人	84	サルコイドーシス	147人
30	遠位型ミオパチー	1人	85	特発性間質性肺炎	60人
31	ベスレムミオパチー	0人	86	肺動脈性肺高血圧症	32人
32	自己食食空胞性ミオパチー	0人	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1人
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0人	88	慢性血栓性肺高血圧症	22人
34	神経線維腫症	26人	89	リンパ管筋腫症	4人
35	天疱瘡	30人	90	網膜色素変性症	43人
36	表皮水疱症	2人	91	バッド・キアリ症候群	1人
37	膿疱性乾癬(汎発型)	19人	92	特発性門脈圧亢進症	0人
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1人	93	原発性胆汁性肝硬変	27人
39	中毒性表皮壊死症	1人	94	原発性硬化性胆管炎	1人
40	高安動脈炎	27人	95	自己免疫性肝炎	6人
41	巨細胞性動脈炎	7人	96	クローン病	147人
42	結節性多発動脈炎	11人	97	潰瘍性大腸炎	380人
43	顕微鏡的多発血管炎	46人	98	好酸球性消化管疾患	5人
44	多発血管炎性肉芽腫症	13人	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0人
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9人	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0人
46	悪性関節リウマチ	6人	101	腸管神経節細胞減少症	0人
47	バージャー病	8人	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0人
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4人	103	CFC症候群	0人
49	全身性エリテマトーデス	293人	104	コステロ症候群	0人
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	133人	105	チャージ症候群	0人
51	全身性強皮症	194人	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0人
52	混合性結合組織病	39人	107	全身型若年性特発性関節炎	0人
53	シェーグレン症候群	70人	108	TNF受容体関連周期性症候群	0人
54	成人スチル病	15人	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0人
55	再発性多発軟骨炎	5人	110	ブラウ症候群	0人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	5人	161	家族性良性慢性天疱瘡	0人
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0人	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13人
113	筋ジストロフィー	22人	163	特発性後天性全身性無汗症	3人
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0人	164	眼皮膚白皮症	0人
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0人	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0人
116	アトピー性脊髄炎	0人	166	弾性線維性仮性黄色腫	0人
117	脊髄空洞症	0人	167	マルファン症候群	1人
118	脊髄髄膜瘤	0人	168	エーラス・ダンロス症候群	3人
119	アイザックス症候群	0人	169	メンケス病	0人
120	遺伝性ジストニア	0人	170	オクシピタル・ホーン症候群	0人
121	神経フェリチン症	0人	171	ウィルソン病	4人
122	脳表へモジデリン沈着症	0人	172	低ホスファターゼ症	0人
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0人	173	VATER症候群	0人
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0人	174	那須・ハコラ病	0人
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1人	175	ウィーバー症候群	0人
126	ペリー症候群	0人	176	コフィン・ローリー症候群	0人
127	前頭側頭葉変性症	3人	177	有馬症候群	0人
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1人	178	モワット・ウィルソン症候群	0人
129	癩癧重積型(二相性)急性脳症	0人	179	ウィリアムズ症候群	0人
130	先天性無痛無汗症	0人	180	ATR-X症候群	0人
131	アレキサンダー病	0人	181	クルーゾン症候群	0人
132	先天性核上性球麻痺	0人	182	アペール症候群	0人
133	メビウス症候群	0人	183	ファイファー症候群	0人
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候	1人	184	アントレー・ビクスラー症候群	0人
135	アイカルディ症候群	0人	185	コフィン・シリス症候群	1人
136	片側巨脳症	0人	186	ロスムンド・トムソン症候群	0人
137	限局性皮質異形成	0人	187	歌舞伎症候群	0人
138	神経細胞移動異常症	0人	188	多脾症候群	0人
139	先天性大脳白質形成不全症	0人	189	無脾症候群	0人
140	ドラベ症候群	0人	190	鰓耳腎症候群	0人
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1人	191	ウェルナー症候群	0人
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0人	192	コケイン症候群	0人
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0人	193	プラダー・ウィリ症候群	0人
144	レノックス・ガストー症候群	1人	194	ソトス症候群	0人
145	ウエスト症候群	1人	195	ヌーナン症候群	0人
146	大田原症候群	0人	196	ヤング・シンプソン症候群	0人
147	早期ミオクロニー脳症	0人	197	1p36欠失症候群	0人
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0人	198	4p欠失症候群	0人
149	片側癱瘓・片麻痺・てんかん症候群	0人	199	5p欠失症候群	0人
150	環状20番染色体症候群	0人	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0人
151	ラスムッセン脳炎	0人	201	アンジェルマン症候群	0人
152	PCDH19関連症候群	0人	202	スミス・マギニス症候群	0人
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0人	203	22q11.2欠失症候群	0人
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0人	204	エマヌエル症候群	0人
155	ランドウ・クレブナー症候群	0人	205	脆弱X症候群関連疾患	0人
156	レット症候群	0人	206	脆弱X症候群	0人
157	スタージ・ウェーバー症候群	0人	207	総動脈幹遺残症	0人
158	結節性硬化症	4人	208	修正大血管転位症	0人
159	色素性乾皮症	0人	209	完全大血管転位症	0人
160	先天性魚鱗癬	0人	210	単心室症	0人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0人	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0人
212	三尖弁閉鎖症	0人	260	シトステロール血症	0人
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0人	261	タンジール病	0人
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0人	262	原発性高カイロミクロン血症	0人
215	ファロー四徴症	2人	263	脳腱黄色腫症	0人
216	両大血管右室起始症	0人	264	無βリポタンパク血症	0人
217	エプスタイン病	0人	265	脂肪萎縮症	0人
218	アルポート症候群	0人	266	家族性地中海熱	0人
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0人	267	高IgD症候群	0人
220	急速進行性糸球体腎炎	2人	268	中條・西村症候群	0人
221	抗糸球体基底膜腎炎	0人	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0人
222	一次性ネフローゼ症候群	12人	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0人
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1人	271	強直性脊椎炎	3人
224	紫斑病性腎炎	2人	272	進行性骨化性線維異形成症	0人
225	先天性腎性尿崩症	0人	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0人
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	8人	274	骨形成不全症	2人
227	オスラー病	0人	275	タナトフォリック骨異形成症	0人
228	閉塞性細気管支炎	1人	276	軟骨無形成症	0人
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1人	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0人
230	肺胞低換気症候群	0人	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0人
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0人	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病)	0人
232	カーニー複合症	0人	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病)	0人
233	ウォルフラム症候群	0人	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症	2人
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0人	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0人
235	副甲状腺機能低下症	3人	283	後天性赤芽球癆	3人
236	偽性副甲状腺機能低下症	0人	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0人
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0人	285	ファンコニ貧血	0人
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0人	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0人
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0人	287	エプスタイン症候群	0人
240	フェニルケトン尿症	0人	288	自己免疫性出血病XIII	0人
241	高チロシン血症1型	0人	289	クロンカイト・カナダ症候群	1人
242	高チロシン血症2型	0人	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1人
243	高チロシン血症3型	0人	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0人
244	メープルシロップ尿症	0人	292	総排泄腔外反症	0人
245	プロピオン酸血症	0人	293	総排泄腔遺残	0人
246	メチルマロン酸血症	0人	294	先天性横隔膜ヘルニア	0人
247	イソ吉草酸血症	0人	295	乳幼児肝巨大血管腫	0人
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0人	296	胆道閉鎖症	0人
249	グルタル酸血症1型	0人	297	アラジール症候群	0人
250	グルタル酸血症2型	0人	298	遺伝性膀胱炎	0人
251	尿素サイクル異常症	0人	299	嚢胞性線維症	0人
252	リジン尿性蛋白不耐症	0人	300	IgG4関連疾患	6人
253	先天性葉酸吸収不全	0人	301	黄斑ジストロフィー	0人
254	ボルフィリン症	0人	302	レーベル遺伝性視神経症	0人
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0人	303	アッシャー症候群	0人
256	筋型糖原病	0人	304	若年発症型両側性感音難聴	0人
257	肝型糖原病	0人	305	遅発性内リンパ水腫	0人
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0人	306	好酸球性副鼻腔炎	43人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0人	カナバン病	319	セピアプテリン還元酵素 (SR) 欠損症	0人
0人	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) 欠損症	0人
0人	進行性ミオクローヌスてんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0人
0人	先天異常症候群	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0人
0人	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0人
0人	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	0人
0人	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	0人
0人	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	0人
0人	ネイルパテラ症候群 (爪膝蓋骨症候群) / LMX1B 関連腎症	327	特発性血栓症 (遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0人
0人	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	0人
0人	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	0人
0人	シトリン欠損症	330	先天性気管狭窄症	0人

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・精神科急性期医師配置加算
・歯科外来診療環境体制加算	・救命救急入院料 3
・歯科診療特別対応連携加算	・救命救急入院料 4
・特定機能病院入院基本料	・特定集中治療室管理料 3
・超急性期脳卒中加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・診療録管理体制加算 1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・医師事務作業補助体制加算 1	・小児入院医療管理料 1
・急性期看護補助体制加算	・短期滞在手術基本料
・看護職員夜間配置加算	
・療養環境加算	
・無菌治療室管理加算	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算 1	
・感染防止対策加算 1	
・感染防止対策地域連携加算	
・患者サポート充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・データ提出加算2	
・退院支援加算	
・認知症ケア加算 2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・糖尿病合併症管理料	・神経学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料1・2	・ロービジョン検査判断料
・移植後患者指導管理料(臓器移植)	・コンタクトレンズ検査料1
・糖尿病透析予防指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来放射線照射診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・遠隔画像診断
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影及びポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・排尿自立指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・薬剤管理指導料	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料1・2	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料(歯科)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・歯科治療総合医療管理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問	・運動器リハビリテーション料(I)
・在宅埋込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・がん患者リハビリテーション料
・遺伝子の検査	・集団コミュニケーション療法料
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・検体検査管理加算I・IV	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・国際標準検査管理加算	・医療保護入院等診療料
・遺伝カウンセリング加算	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・胎児心エコー法	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・時間内歩行試験	・透析液水質確保加算2
・ヘッドアップルティルト試験	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・磁気による膀胱等刺激法	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・歯科技工加算	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・悪性黒色種センチネルリンパ節加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	・体外衝撃波胆石破碎術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下肝切除
・仙骨神経刺激装置埋込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・生体部分肝移植術
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1・2	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・同種死体肺移植術	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・生体部分肺移植術	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・同種死体腎移植術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・生体腎移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・膀胱水圧拡張術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・補助人工心臓	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・輸血管理料(Ⅱ)
	・貯血式自己血輸血管理体制加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・他焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	・
・前眼部三次元画像解析	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	・
・リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	平成28年度 : 2回
剖検の状況	剖検症例数 28例 / 剖検率 5.3%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
RUNX1-EVI1転座型白血病の分子機構の解析	三谷 絹子	内科学（血液・腫瘍）	1,800,000	補委 日本学術振興会
重度の支障のある難治性片頭痛患者における脳マッピングを用いた中枢感作の病態解明	平田 幸一	内科学（神経）	1,000,000	補委 日本学術振興会
神経変性疾患における血清インスリン様成長因子1と臨床症候との関連	鈴木 圭輔	内科学（神経）	500,000	補委 日本学術振興会
肺微小環境再生に關与する脂質の解析	清水 泰生	内科学（呼吸器・アレルギー）	700,000	補委 日本学術振興会
統合失調症・気分障害患者における突然死の素因探索と予防法の立案	岡安 寛明	精神神経医学	800,000	補委 日本学術振興会
ミルタザピンのエナンチオマー薬物動態解析による新たな治療薬候補分子の探索	林 有希	精神神経医学	900,000	補委 日本学術振興会
甲状腺腫瘍における新規遺伝子HMGA2の制御機構	菱沼 昭	感染制御・臨床検査医学	1,000,000	補委 日本学術振興会
胃癌細胞における放射性ヨード治療の可能性の基礎的検討	小飼 貴彦	感染制御・臨床検査医学	1,000,000	補委 日本学術振興会
大腸癌化学療法の効果を予測するDNA修復蛋白群発現に関する研究	山口 悟	第一外科学	700,000	補委 日本学術振興会
血管細胞における血流のメカノトランスダクション機構	安藤 譲二	整形外科	10,400,000	補委 日本学術振興会
腎癌におけるFHがん抑制遺伝子解析とメタボロミクスによるエネルギー代謝異常解析	釜井 隆男	泌尿器科学	700,000	補委 日本学術振興会
喘息気道炎症の嗅粘膜分泌異常への関与一気道リモデリングの嗅粘膜機能障害の解明一	春名 真一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	600,000	補委 日本学術振興会
慢性副鼻腔炎における自然免疫リンパ球の関与について	宇野 匡佑	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,000,000	補委 日本学術振興会
鼻粘膜における創傷治癒促進因子の解明 及び細胞シートによる新しい治療法の確立	大村 和弘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,600,000	補委 日本学術振興会
脂肪幹細胞を用いた慢性疼痛治療の基礎研究	今西 理也	形成外科学	1,700,000	補委 日本学術振興会
静脈認証技術を血行モニタリングへ応用するための基礎的研究	倉林 孝之	形成外科学	1,500,000	補委 日本学術振興会
D-アミノ酸オキシダーゼが脊髄侵害受容性シナプス伝達に与える影響	高薄 敏史	麻酔科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
膜電位イメージングを用いたβエンドルフィンによる脊髄鎮痛機序の解明	寺島 哲二	麻酔科学	1,800,000	補委 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌発生母細胞の同定とその臨床的意義	川又 均	口腔外科学	500,000	補委 日本学術振興会
CXCR4システムを介した口腔癌の転移機構におけるmiR-518c-5pの役割	内田 大亮	口腔外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
PDXモデルを用いた口腔癌における新規転移マーカーの探索	木内 誠	口腔外科学	1,900,000	補委 日本学術振興会
mGluR5特異的経口阻害剤RG7090による口腔癌の転移抑制療法の開発	栗林 伸行	口腔外科学	1,800,000	補委 日本学術振興会
骨組織維持機構の解明による新規骨粗鬆症治療戦略の構築	小宮山 雄介	口腔外科学	1,300,000	補委 日本学術振興会
IgG4関連疾患の新規診断法を目指した疾患特異的miRNAの同定	土田 修史	口腔外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
膜輸送関連蛋白質alpha-taxilinの消化管発癌における役割	今井 康雄	病理診断学	1,300,000	補委 日本学術振興会
心大血管疾患患者の筋萎縮、サルコペニアとその対策としての新規リハビリ法の検討	中島 敏明	ハートセンター	3,600,000	補委 日本学術振興会
間質性膀胱炎における膀胱上皮再生のマスター転写因子の同定	山西 友典	排泄機能センター	1,500,000	補委 日本学術振興会

パーキンソン病の自律神経機能に対する脳深部刺激療法の影響に関する検討	内山 智之	排泄機能センター	1,400,000	補委	日本学術振興会
小児ビタミンD欠乏症の実態把握と発症率の推定	小山 さとみ	小児科学	1,250,000	補委	厚生労働省
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	山口 重樹	麻酔科学	200,000	補委	厚生労働省
早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	簗持 淳	皮膚科学	400,000	補委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	種市 洋	整形外科	300,000	補委	厚生労働省
脊椎インストゥルメンテーション患者にアフターケアは本当に必要か？全国労災病院と産業医科大学を含む多施設大規模調査	種市 洋	整形外科	代表者一括計上	補委	厚生労働省
新規疾患：TAFRO症候群の確立のための研究	小島 勝	病理診断学	50,000	補委	厚生労働省
子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究	平田 幸一	内科学(神経)	代表者一括計上	補委	厚生労働省
Treacher Collins 症候群の診断と医療的ケアと社会的支援	朝戸 裕貴	形成外科学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
じん肺の診断基準及び手法に関する調査研究	荒川 浩明	放射線医学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
好酸球性副鼻腔炎の診療ガイドライン作成と実態調査	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	代表者一括計上	補委	厚生労働省
間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する研究	山西 友典	排泄機能センター	代表者一括計上	補委	厚生労働省
B型肝炎ウイルスRNAと相互作用する宿主因子の網羅的同定とその制御による病態制御法開発	青木 琢	第二外科学	5,000,000	補委	AMED
消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究	青木 琢	第二外科学	代表者一括計上	補委	AMED
先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注療法の有効性・安全性に関する研究	有阪 治	小児科学	代表者一括計上	補委	AMED
乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の増悪抑制効果に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験	吉原 重美	小児科学	代表者一括計上	補委	AMED
ギランバレー症候群に対するエクリズマブの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験	平田 幸一	内科学(神経)	841,360	補委	AMED
治験の実施に関する研究 [g-CSF]	種市 洋	整形外科	1,295,000	補委	AMED
男性腹圧性尿失禁に対する低侵襲再生治療のための、自己ヒト皮下脂肪組織由来再生(幹)細胞分離用医療機器の開発研究	山西 友典	排泄機能センター	6,845,800	補委	AMED
吸収性スプレーを用いた体内空間可変粒子線治療の有用性と安全性の検討	村上 昌雄	放射線治療センター	300,000	補委	AMED
慢性疲労症候群に対する治療法の開発と治療ガイドラインの作成	鄭 忠和	内科学(心臓・血管)	500,000	補委	AMED
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	650,000	補委	AMED
臨床応用のための新規光感受性糖鎖連結クロリンを用いた癌細胞超選択的次世代光線力学療法の開発	中村 哲也	医療情報センター	2,000,000	補委	AMED
デルマタン4-0-硫酸基転移酵素-1欠損に基づくエーラスダンロス症候群の病態解明と治療法の開発	簗持 淳	皮膚科学	1,000,000	補委	AMED
神経膠種(グリオーマ)治療抵抗性に関連した不均一性獲得機構の解明とそれに対応する治療戦略の構築	植木 敬介	腫瘍センター	520,000	補委	AMED

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Muraoka R, Tominaga K, Sai X, Takenaka K, Sugaya T, Nakano M, Yoshitake N, Yamaguchi S, Nagata H, Yamagishi H, Mitomi H, Hiraishi H	消化器内科	Ulcerative Colitis-associated Cancer/Dysplasia Detected Using Surveillance Colonoscopy Performed in the Clinical Remission Phase: A Report of Five Cases.	Intern Med 2016 Apr vol. 55 no. 8 911-7	Original Article
2	Takahashi F, Tominaga K, Kanamori A, Takenaka K, Hoshino A, Sugaya T, Nakano M, Hiraishi H	消化器内科	Timing for dose-down of 5-ASA depends on mucosal status with ulcerative colitis.	Scand J Gastroenterol 2016 Jul vol.51 no.7 827-834	Original Article
3	Nakano M, Tominaga K, Hoshino A, Sugaya T, Kanke K, Hiraishi H.	消化器内科	Therapeutic efficiency of an elemental diet for patients with crohn's disease and its association with amino acid metabolism.	Saudi J Gastroenterol. 2017 vol.23 20-27	Original Article
4	Iwasaki M, Tsuchida K, Jinnai H, Komatsubara T, Arisaka T, Tsunemi M, Nakano M, Iijima M, Hiraishi H	消化器内科	Multiple Treatment of Vasoactive Intestinal Polypeptide-producing Pancreatic Neuroendocrine Tumors with Liver Metastasis.	Internal Medicine 2017 vol.56 517-522	Original Article
5	Takahashi F, Tominaga K, Hiraishi H	消化器内科	Hepatic Portal Venous Gas Caused by Endoscopic Balloon Dilatation for Crohn's Stenosis.	Clin Gastroenterol Hepatol 2016 Dec vol.14 no.12 A23-A24	Original Article

6	Satoh K, Yoshino J, Akamatsu T, Itoh T, Kato M, Kamada T, Takagi A, Chiba T, Nomura S, Mizokami Y, Murakami K, Sakamoto C, Hiraishi H, Ichinose M, Uemura N, Goto H, Joh T, Miwa H, Sugano K, Shimosegawa T	消化器内科	Evidence-based clinical practice guidelines for peptic ulcer disease 2015.	J Gastroenterol 2016 May vol.51 no.3 177-94	Original Article
7	Kanamori A, Sugaya T, Tominaga K, Takahashi F, Takenaka K, Hoshino A, Koike T, Nakano M, Hiraishi H	消化器内科	Endoscopic balloon dilation for stenotic lesions in Crohn's disease	Turk J Gastroenterol 2017 Mar vol.28 no.2 117-124	Original Article
8	Arisaka O, Ichikawa G, Koyama S, Shimura N, Imataka G, Kurosawa H, Nitta A	小児科	Early Adiposity Rebound and Small Dense Low-Density Lipoprotein in Childhood Obesity.	J Obes Weight Loss Therapy 2016 6:e301	Original Article
9	Kurosawa H, Tanizawa A, Tono C, Watanabe A, Shima H, Ito M, Yuza Y, Hotta N, Muramatsu H, Okada M, Kajiwara R, Saito AM, Mizutani S, Adachi S, Horobe K, Ishii E, Shimada H	小児科	Leukostasis in Children and Adolescents with Chronic Myeloid Leukemia: Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group.	Pediatr Blood Cancer 2016 63:406-411	Original Article
10	Yoshihara S, Munkhbayarlakh S, Makino S, Ito C, Narantsetseg L, Sarangerel D, Sagara H, Fukuda T, Arisaka O	小児科	Prevalence of childhood asthma in Ulaanbaatar, Mongolia in 2009.	Allergol Int 2016 65:62-67	Original Article
11	Yoshihara S, Fukuda H, Tamura M, Arisaka O, Ikeda M, Fukuda N, Tsuji T, Hasegawa S, Kanno, N, Teraoka M, Wakiguchi H, Aoki Y, Igarashi H, Terada A, Hasegawa M, Manki A	小児科	Efficacy and safety of salmeterol/fluticasone combination therapy in infants and preschool children with asthma insufficiently controlled by inhaled corticosteroids.	Drug Research 2016 66:371-376	Original Article
12	Imataka G, Suzumura H, Arisaka O	小児科	Clinical features and survival in individuals with trisomy 18: A retrospective one-center study of 44 patients who received intensive care treatments.	Mol Med Rep 2016 13:2457-2466	Original Article

13	Imataka G, Nakajima I, Goto K, Konno W, Hirabayashi H, Arisaka O	小児科	Drop episodes improved after tracheotomy: a case of Coffin-Lowry syndrome associated with obstructive sleep apnea syndrome.	Eur Rev Med Pharmacol Sci 2016 20:498-501	Case report
14	Imataka G, Hagiwara S, Nitta A, Hirabayashi H, Suzumura H, Arisaka O	小児科	Long-term survival of full trisomy 13 in a 14 year old male: a case report.	Eur Rev Med Pharmacol Sci 2016 20:919-922	Case report
15	Imataka G, Arisue K	小児科	Epilepsy-related automobile accidents in Japan: legal changes about a precedent and penal regulations.	Eur Rev Med Pharmacol Sci 2016 30:491-497	Review
16	Sato Y, Kurosawa H, Fukushima K, Okuya M, Arisaka O	小児科	Burkitt's type acute lymphoblastic leukemia with precursor B-cell immunophenotype and partial tetrasomy of 1q: A case report.	Medicine 95:e2904-2908, 2016	Case report

17	Nitta A, Suzumura H, Arisaka O, Miura T, Igarashi Y	小児科	Fetal bone formation is decreased from middle pregnancy to birth.	Tohoku J Exp Med 239:147-153, 2016	Original Article
18	Kuribayashi R, Suzumura H, Sairenchi T, Watabe Y, Tsuboi Y, Imataka G, Kurosawa H, Arisaka O	小児科	Urinary neutrophil gelatinase-associated lipocalin is an early predictor of acute kidney injury in premature infants.	Exp Ther Med 12 : 3706-3710, 2016	Original Article
19	Miyamoto K, Takeuchi D, Inai K, Shinohara T, Nakanishi T	小児科	Prognostic value of multiple biomarkers for cardiovascular mortality in adult congenital heart disease: comparisons of single-/two-ventricle physiology, and systemic morphologically right/left ventricles.	Heart Vessels 31:1834-1847, 2016	Case report
20	Ichikawa J, Ichikawa G, Tsuboi Y, Kuribayashi R, Watabe Y, Sairenchi T, Suzumura H, Arisaka O	小児科	Safety of lipid emulsion in very low-birthweight infants according to cytokine level.	Pediatr Int 58:556-61, 2016	Original Article
21	Ando Y, Sato Y, Kuwashima S, Fukushima K, Okuya M, Imataka G, Kurosawa H, Arisaka O	小児科	Subacute encephalopathy with transhemispheric transition of a focal lesion following intrathecal methotrexate injection in pre-B-cell acute lymphoblastic leukemia: A case report.	Ann Hematol Oncol 3, 2016 http://austinpublishinggroup.com/hematology/all-issues.php オンライン	Case report
22	Okada H, Kurasawa K, Yamazaki R, Tanaka A, Arai S, Owada T, Maezawa R, Ishii Y.	リウマチ・膠原病内科	Clinical features of organizing pneumonia associated with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol. 2016 Apr オンライン	Original Article
23	Nagasawa J, Kurasawa K, Hanaoka R	リウマチ・膠原病内科	Rituximab improved systemic lupus erythematosus-associated pulmonary alveolar proteinosis without decreasing anti-GM-CSF antibody levels	Lupus 2016 Jun vol 25. no.7 783-4	Original Article

24	Ishii Y	呼吸器・アレルギー内科	New era of respiratory endoscopy.	Respir Investig. 2016 Jul Vol.54 no.4 223	Original Article
25	Shimizu Y, Satou M, Hayashi K, Nakamura Y, Fujimaki M, Horibata Y, Ando H, Watanabe T, Shiobara T, Chibana K, Takemasa A, Sugimoto H, Anzai N, Ishii Y	呼吸器・アレルギー内科	Matrix-assisted laser desorption/ionization imaging mass spectrometry reveals changes of phospholipid distribution in induced pluripotent stem cell colony differentiation.	Anal Bioanal Chem. 2017 Feb vol.409 no.4 1007-1016	Original Article
26	Shimizu Y, Kawada A, Shimoyama Y, Kusano M, Horie T, Ishii Y, Yamada M, Takise A, Dobashi K	呼吸器・アレルギー内科	Gastric Emptying in Idiopathic Pulmonary Fibrosis Patients Treated with Pirfenidone.	Ther Res. 2016 Sep vol.37 no.9 879-885	Original Article

27	Morita H, Arai S, Kurasawa K, Okada H, Tanaka A, Yamazaki R, Owada T, Maezawa R	呼吸器・アレルギー内科	Intensive immunosuppressive therapy for endogenous lipoid pneumonia associated with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol. 2016 Jun vol.20 1-5 オンライン	Original Article
28	Yoshitatsu Fukabori	泌尿器科	When can we use the doubling rule of PSA to detect prostate cancer for BPH patients who are treated with 5alpha-reductase inhibitor?	Journal of Cancer Prevention & Current Research 2016 Sep vol.5 no.5 174	Review
29	Fukuda T, Kamai T, Masuda A, Nukui A, Abe H, Arai K, Yoshida KI	泌尿器科	Higher preoperative serum levels of PD-L1 and B7-H4 are associated with invasive and metastatic potential and predictable for poor response to VEGF-targeted therapy and unfavorable prognosis of renal cell carcinoma	Cancer Med 2016 Jun vol.1 1	Original Article
30	Kobayashi M, Nukui A, Kamai T	泌尿器科	Psychological impact of serial prostate-specific antigen tests in Japanese men waiting for prostate biopsy	Int J Clin Oncol 2017 Feb vol.22 no.1 174-180	Original Article
31	Suzuki I, Kaga K, Takei K, Tokura Y, Sakamoto K, Nishihara D, Mizuno T, Yuki H, Betsunoh H, Abe H, Yashi M, Fukabori Y, Yamanishi T, Kamai T	泌尿器科	Extravasation of Urine Associated with Bilateral Complete Ureteral Duplication, Vesicoureteral Reflux and Benign Prostatic Hyperplasia	Urol Case Rep 2017 Feb vol.11 47-49	Original Article
32	Kikuchi M, Nakajima M, Muroi H, Takahashi M, Itoh J, Yamaguchi S, Sasaki K, Kato H	第一外科	Significance of Expression of Complement C4d in Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Anticancer Res 2016 Sep vol.36 no.9 53	Original Article

33	Hiroyuki Kato, Yuko Kitagawa, Hiroyuki Kuwano, Yasushi Toh, Motoyasu Kusano, Tuneo Oyama, Manabu Muto, Hiroya Takeuchi, Yuichiro Doki, Yoshio Naomoto, Kenji Nemoto, Hisahiro Matsubara, Tatsuya Miyazaki, Akio Yanagisawa, Takashi Uno, Ken Kato, Masahiro Yoshida, Hirofumi Kawakubo, Eisuke Booka, Masanobu Nakajima, Koichi Kaneko, Akihiro Shiotani	第一外科	Neo-adjuvant therapy or definitive chemoradiotherapy can improve laryngeal preservation rates in patients with cervical esophageal cancer. A Japanese nationwide survey	Esophagus 2016 Jul vol.13 no.3 276-282	Original Article
34	Nakajima M, Takahashi M, Domeki Y, Satomura H, Muroi H, Kikuchi M, Ogata H, Yamaguchi S, Sasaki K, Sakai M, Sohda M, Miyazaki T, Kuwano H, Kato H	第一外科	Effective Mediastinal Lymphadenectomy for Esophageal Cancer Using Slender Tracheal Forceps in Prone Position Thoracoscopic Esophagectomy	In Vivo 2016 Nov vol.30 no.6 893-898	Original Article
35	Masanobu Nakajima, Hiroyuki Kato, Tatsuya Miyazaki, Takanori Inose, Naritaka Tanaka, Shigemasa Suzuki, Takehiko Yokobori, Makoto Sakai, Akihiko Sano, Keisuke Ieta, Makoto Sohda, Minoru Fukuchi, Hiroyuki Kuwano	第一外科	An Absolute Standardized Uptake Value Is More Useful than the Decreased Rate of Uptake of FDG-PET to Predict Responses to Neoadjuvant Chemoradiotherapy for Esophageal Cancer	Open Journal of Gastroenterology 2016 Jun vol.6 no.11 373-385	Original Article
36	Kobayashi S, Karube Y, Nishihira M, Inoue T, Araki O, Sado T, Chida M	呼吸器外科	Usefulness of Inflammation-Based Prognostic Score in Patients Undergoing Lung Metastasectomy for Colorectal Carcinoma	World J Surg 2016 Jun vol.40 no.7 1632-1637	Original Article
37	Karube Y, Kobayashi S, Maeda S, Sado T, Ishihama H, Chida M	呼吸器外科	Tumor-related gene expression levels in thymic carcinoma and Type B3 thymoma	J cardiothorac surg 2016 May vol.11 no.1 85	Original Article

38	Kobayashi S, Karube Y, Nishihira M, Inoue T, Araki O, Maeda S, Sado T, Matsumura Y, Chida M	呼吸器外科	Postoperative pyothorax a risk factor for acute exacerbation of idiopathic interstitial pneumonia following lung cancer resection	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2016 Aug vol. 64 no.8 476-480	Original Article
39	Inami S, Moridaira H, Takeuchi D, Shiba Y, Nohara Y, Taneichi H	整形外科	Optimum pelvic incidence minus lumbar lordosis can be determined by individual pelvic incidence.	Eur Spine J 2016 Apr vol.25 no.11 3638-3643	Original Article
40	Shiba Y, Taneichi H, Moridaira H, Takeuchi D, Nohara Y	整形外科	Dynamic global sagittal alignment evaluated by three-dimensional gait analysis in patients with degenerative lumbar kyphoscoliosis.	Eur Spine J 2016 Aug vol.25 no.8 2572-2579	Original Article
41	Masaoka K, Asato H, Umekawa K, Imanishi M, Suzuki A	形成外科	Value of remote ischaemic preconditioning in rat dorsal skin flaps and clamping time.	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery 2016 Apr vol.50 no.2 107-110	Original Article
42	Ai Yokoyama, Norio Fukuda, Hirota Asato	形成外科	Congenital Multiple Metatarsal Synostoses with Proximal Phalangeal Deformities of the Foot	Arch Plast Surg. 2016 Nov vol.43 no.6 619-621	Case report
43	Yamashita Y, Hamaguchi S, Komatsuzaki M, Takahashi Y, Takasusuki T	麻醉科	Comparing the Washout Profiles of Desflurane in Various Anesthesia Workstations.	Grob Anesth Perioper Med 2016 Aug vol.2 207-209	Original Article
44	Hamaguchi S	麻醉科	Clinical Use of Buprenorphine for Anesthesia and Pain Management in Japan.	J Anesth Clin Res 2016 Oct vol.7 no.10 676	Review

45	Sato Y, Hamaguchi S, Numata Y, Komatsuzaki, M, Yamashita Y	麻酔科	Anesthetic Management of A Patient who Underwent Emergent Cesarean Section after Sudden Disturbance of Consciousness Caused by Disseminated Intravascular Coagulation due to Severe Urine Infection and Septic Shock.	J Anesth Clin Res 2016 May vol.7 no.5 613	Case report
46	Harada Y, Michel J, Koenig W, Rheude T, Colleran R, Giacoppo D, Kastrati A, Byrne RA	総合診療科	Prognostic Value of Cardiac Troponin T and Sex in Patients Undergoing Elective Percutaneous Coronary Intervention	J Am Heart Assoc 2016 Nov vol.5 no.12 e004464	Original Article
47	Harada T, Hirose T, Morinaga K, Shimizu T	総合診療科	Metoclopramide-induced Serotonin Syndrome	Intern Med 2017 vol.56 no.6 737-739	Original Article
48	Hirose T, Shimizu T, Isegawa T, Tanabe M	総合診療科	Left pleural effusion caused by pancreaticopleural fistula with a pancreatic pseudocyst	BMJ Case Rep 2016 Aug オンライン	Case report
49	Harada Y, Hara Y	総合診療科	Incidentally diagnosed renal cancer following investigation for new-onset hyperglycemia	Case Rep Intern Med 2016 Jun vol.3 no.3 22-25	Case report
50	Harada Y, Hara Y	総合診療科	Herpes Simplex Encephalitis Complicated by Cerebral Hemorrhage during Acyclovir Therapy	Intern Med 2017 Jan vol.56 no.2 225-229	Case report

51	Harada Y, Colleran R, Kufner S, Giacoppo D, Rheude T, Michel J, Cassese S, Ibrahim T, Laugwitz KL, Kastrati A, Byrne RA	総合診療科	Five-year clinical outcomes in patients with diabetes mellitus treated with polymer-free sirolimus- and probucol-eluting stents versus second-generation zotarolimus-eluting stents: a subgroup analysis of a randomized controlled trial	Cardiovasc Diabetol 2016 Sep vol.15 no.1 124	Original Article
52	Harada Y, Kondo T	総合診療科	Excessive Dynamic Airway Collapse Detected Using Nondynamic CT	Intern Med 2016 Jun vol.55 no.11 1477-1479	Case report
53	Harada Y, Sakai K, Asaka S, Nakayama K	総合診療科	Angioimmunoblastic T-cell Lymphoma Associated with IgA Nephropathy	Intern Med 2017 Jan vol.56 no.1 85-89	Case report
54	Iwasaki A, Suzuki K, Takekawa H, Takashima R, Suzuki A, Suzuki S, Hirata K	神経内科	The relationship between right-to-left shunt and brain white matter lesions in Japanese patients with migraine: a single center study	J Headache Pain 2017 vol.18 no.1 3	Original Article
55	Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, Suzuki S, Inoue Y, Murata M, Matsui K, Nishida S, Hayashida K, Usui A, Ueki Y, Nakamura M, Hirata K	神経内科	The effect of comorbidity of restless legs syndrome and migraine on sleep and mood: an integration of multicenter data	Sleep Biol Rhythms 2016 vol.14 no.2 187-191	Original Article
56	Fujita H, Suzuki K, Numao A, Watanabe Y, Uchiyama T, Miyamoto T, Miyamoto M, Hirata K:	神経内科	Usefulness of cardiac MIBG scintigraphy, olfactory testing and substantia nigra hyperechogenicity as additional diagnostic markers for distinguishing between Parkinson's disease and atypical Parkinsonian syndromes	PLoS ONE 2016 vol.11 no.11 e0165869	Original Article

57	Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Maeda H, Nokura K, Tohyama J, Hirata K, Shimizu T, Kanbayashi T	神経内科	Hypocretin-1 levels in the cerebrospinal fluid of patients with Percheron artery infarction with or without midbrain involvement: A case series	Medicine (Baltimore) 2016 vol.95 no.29 e4281	Original Article
58	Sakuta H, Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Numao A, Fujita H, Watanabe Y, Hirata K	神経内科	Serum uric acid levels in Parkinson's disease and related disorders	Brain and Behavior 2016 vol.7 no.1 e00598	Original Article
59	Aoki R, Suzuki K, Shiina T, Okamura M, Suzuki A, Sakuramoto H, Hirata K	神経内科	Bilateral hippocampal hyperintensities on diffusion-weighted images in transient global amnesia	Neurology and Clin Neuroscience 2016 vol.4 no.5 197	Case report
60	Kokubun N, Komagamine T, Hirata K	神経内科	Pregnancy and delivery in anti-NMDA receptor encephalitis survivors	Neurology: Clinical Practice 2016 vol.6 no.5 e-40-e43	Case report
61	Suzuki K, Kawasaki A, Nagashima T, Hirata K	神経内科	Diffusion-weighted MRI abnormalities antedate the onset of sporadic Creutzfeldt-Jakob disease	Neurology 2016 vol.87 no.8 843-845	Case report
62	Suzuki K, Miyamoto M, Uchiyama T, Miyamoto T, Matsubara T, Hirata K	神経内科	Restless Bladder in an Elderly Woman: An Unusual Feature or a Variant of Restless Legs Syndrome?	Intern Med 2016 vol.55 no.18 2713-2716	Case report
63	Kaori Kiuchi, Kiyoshi Hasegawa, Tatsuko Nagai, Mariko Watanabe, Nobuaki Kosaka, Hiromi Machida, Yasuo Imai, Ichio Fukasawa	産科婦人科	Uterine cervical adenocarcinoma metastasizing concurrently to eutopic and ectopic ovaries: A case report.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2016 Jul vol.42 no.7 899	Original Article

64	Mariko Watanabe, Kiyoshi Hasegawa, Anriko Kanamori, Kaori Kiuchi, Tatsuya Kuno, Nobuaki Kosaka, Ichio Fukasawa, Yasuo Imai.	産科婦人科	Late recurrence of gastric cancer in the ovary and uterine cervix.	Int Canc Conf J. 2016 Oct vol.5 206-213	Case report
65	Kaori Kiuchi, Kiyoshi Hasegawa, Emi Motegi, Nobuyuki Kosaka, Yasuhiro Udagawa, Ichio Fukasawa	産科婦人科	Complications of laser conization versus loop electrosurgical excision procedure in pre- and postmenopausal patients.	Eur J Gyneacol Oncol 2016 Dec vol.37 no.6 803-808	Original Article
66	Kiyoshi Hasegawa, Yutaka Torii, Rina Kato, Yasuhiro Udagawa, Ichio Fukasawa	産科婦人科	The problems of cervical conization for postmenopausal patients	Eur J Gyneacol Oncol 2016 vol.37 no.3 327-331	Original Article
67	Motegi E, Hasegawa K, Kawai S, Kiuchi K, Kosaka N, Mochizuki Y, Fukasawa I	産科婦人科	Levonorgestrel- releasing intrauterine system placement for severe uterine cervical stenosis after conization: two case reports	J Med Case Rep 2016 vol.10 no.1 56	Case report
68	Kaori Kiuchi, Kiyoshi Hasegawa, Anriko Kanamori, Hiromi Machida, Masaru Kojima, Ichio Fukasawa	産科婦人科	Carcinosarcoma arising from uterine adenomyosis: a case report	J Obstet Gyneacol Res 2016 vol.42 no.3 358-362	Case report
69	Go Tsuchiya, Takayuki Hori, Nobuyuki Onizawa, Naoyuki Otani, Sawako Tanaka- Nakadate, Tatou Iseki, Motoshi Ouchi, Keitaro Hayashi, Promsuk Jutabha, Toru Oba, Hirotsugu Fukuda, Naohiko Anzai	心臓・血管外科	Molecular Mechanism of the Urate-lowering Effects of Calcium Channel Blockers	Dokkyo Journal of Medical Sciences 2016 vol. 43 23-29	Original Article
70	Yasuyuki Yamada, Yuta Kanazawa, Yusuke Takei, Hirotsugu Fukuda	心臓・血管外科	Type A aortic dissection with intimal intussusception	Journal of Cardiac Surgery 2016 vol.31 693-694	Original Article

71	Yasuyuki Yamada, Ikuko Shibasaki, Toshiyuki Kuwata, Hirotsugu Fukuda	心臓・血管外科	Massive mitral valve thrombosis following reversal of warfarin in a patient with rheumatic mitral valve stenosis	Journal of Cardiac Surgery 2016 vol.31 596 -598	Original Article
72	Takada A, Shimizu K, Nakazato Y, Ohikata K, Tsuchida S, Iijima M, Kojima M	病理診断科	Infectious mononucleosis lymphadenitis resembling Kikuchi's disease: Cytological, histopathological, and immunohistological findings	J Clin Exp Hematop 2017 Mar vol.56 no.3 176-178	Others
73	Kubota K, Pinato DJ, Sharma R, Allara E, Yen C, Arizumi T, Bettinger D, Jang JW, Smirne C, Kim YW, Kudo M, Howell J, Ramaswami R, Burlone ME, Guerra V, Thimme R, Ishizuka M, Stebbing J, Pirisi M, Carr BI.	第二外科	The ALBI grade provides objective hepatic reserve estimation across each BCLC stage of hepatocellular carcinoma.	J Hepatol 2017 Feb vol.66 no.2 338-346	Original Article
74	Kubota K, Shimoda M, Tago K, Shiraki T, Mori S, Kato M, Aoki T	第二外科	Risk Factors for Early Recurrence of Single Lesion Hepatocellular Carcinoma After Curative Resection.	World J Surg 2016 Oct vol.40 no.10 2466-2471	Original Article
75	Tago K, Inoue K, Ouchi M, Miura Y, Kubota K.	第二外科	Receptor for advanced glycation endproducts signaling cascades are activated in pancreatic fibroblasts, but not in the INS1E insulinoma cell line: Are mesenchymal cells major players in chronic inflammation?	Islets 2016 sep vol.8 no.5 135-144	Original Article
76	Kubota K, Ramaswami R, Pinato DJ, Ishizuka M, Arizumi T, Kudo M, Jang JW, Kim YW, Pirisi M, Allara E, Sharma R.	第二外科	Prognostic sub-classification of intermediate-stage hepatocellular carcinoma: a multicenter cohort study with propensity score analysis.	Med Oncol 2016 Oct vol.33 no.10 114	Original Article

77	Ishizuka M, Shibuya N, Shimoda M, Kato M, Aoki T, Kubota K.	第二外科	Preoperative hypoalbuminemia is an independent risk factor for conversion from laparoscopic to open cholecystectomy in patients with cholelithiasis.	Asian J Endosc Surg. 2016 Nov vol.9 no.4 275-280	Original Article
78	Tanaka G, Inoue K, Shimizu T, Akimoto K, Kubota K.	第二外科	Dual pharmacological inhibition of glutathione and thioredoxin systems synergizes to kill colorectal carcinoma stem cells.	Cancer Med 2016 Sep vol.5 no.9 2544-2557	Original Article
79	Kubota K, Pinato DJ, Stebbing J, Ishizuka M, Khan SA, Wasan HS, North BV, Sharma R.	第二外科	Corrigendum to "A novel and validated prognostic index in hepatocellular carcinoma: The Inflammation Based Index (IBI)".	J Hepatol 2016 May no.16 30205-30207	Original Article
80	Ishizuka M, Kubota K, Nemoto T, Shimoda M, Kato M, Iso Y, Tago K.	第二外科	Administration of adjuvant oral tegafur/uracil chemotherapy post hepatocellular carcinoma resection: A randomized controlled trial.	Asian J Surg 2016 Jun vol.39 no.3 149-154	Original Article
81	Shimizu T, Inoue K, Hachiya H, Shibuya N, Aoki T, Kubota K.	第二外科	Accumulation of phosphorylated p62 is associated with NF- κ B-related factor 2 activation in hepatocellular carcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2016 Aug vol.23 no.8 467-471	Original Article
82	Aoki T, Kubota K	第二外科	Preoperative portal vein embolization for hepatocellular carcinoma: Consensus and controversy	World J Hepatol 2016 vol.8 no.9 439-445	Review

83	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Iwasaki Y, Shibuya N, Kubota K	第二外科	Clinical Significance of the C-Reactive Protein to Albumin Ratio for Survival After Surgery for Colorectal Cancer	Ann Surg Oncol 2016 vol.23 no.3 900-907	Original Article
84	Ishizuka M, Terasaki A, Kubota K	第二外科	Exacerbation of prothrombin time-international normalized ratio before second polymyxin B cartridge hemoperfusion predicts poor outcome of patients with severe sepsis and/or septic shock	J Surg Res 2016 vol.200 no.1 308-314	Original Article
85	Matsumoto T, Kubota K, Aoki T, Iso Y, Kato M, Shimoda M	第二外科	Clinical Impact of Anatomical Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma with Pathologically Proven Portal Vein Invasion	World J Surg 2016 vol.40 no.2 402-411	Original Article
86	Shimizu T, Ishizuka M, Kubota K	第二外科	A lower neutrophil to lymphocyte ratio is closely associated with catarrhal appendicitis versus severe appendicitis	Surg Today 2016 vol.46 no.1 84-89	Original Article
87	Yumiko Takano, Yuji Ozeki, Masae Sekine, Kumiko Fujii, Takashi Watanabe, Hiroaki Okayasu, Takahiro Shinozaki, Akiko Aoki, Kazufumi Akiyama, Hiroshi Homma, Kazutaka Shimoda	精神神経科	Multi-regression analysis revealed a relationship between l-serine and methionine, a component of one-carbon metabolism, in the normal control but not in the schizophrenia.	Annals of General Psychiatry 2016 Aug vol.15 23	Original Article
88	Akira Osone, Reiko Arai, Rina Hakamada, Kazutaka Shimoda	精神神経科	Impact of lifestyle-related disease on conversion and reversion in Japanese patients with mild cognitive impairment: 12 months of follow-up	International Journal of Geriatric Psychiatry 2016 Nov vol.31 no.7 740-748	Original Article

89	Osone Akira, Arai Reiko, Hakamada Rina, Shimoda Kazutaka	精神神経科	Cognitive and brain reserve in conversion and reversion in patients with mild cognitive impairment over 12 months of follow-up	Journal of Clinical and Experimental Neuropsychology 2016 Dec vol.38 no.10 1084-1093	Original Article
90	Takashi Watanabe, Shin Ishiguro, Akiko Aoki, Mikito Ueda, Yuki Hayashi, Kazufumi Akiyama, Kazutaka Shimoda	精神神経科	1019C/G (rs6295) promoter polymorphism of the 5-HT1A receptor G/G genotype is associated with panic disorder: an association study in a Japanese population	Psychiatry Investigation 2017 Jan vol.14 no.1 86-92	Original Article
91	Iwamatsu K, Abe S, Nishida H, Kageyama M, Nasuno T, Sakuma M, Toyoda S, Inoue T.	心臓・血管内科	Which has the stronger impact on coronary artery disease, eicosapentaenoic acid or docosahexaenoic acid?	Hypertens Res 2016 Apr vol.39 272-275	Original Article
92	Nasuno T, Tokura M, Kageyama M, Toyoda S, Sakuma M, Komatsu T, Taguchi I, Abe S, Inoue T.	心臓・血管内科	The wound healing response after implantation of a drug-eluting stent is impaired persistently in the long term.	Heart Vessels 2016 Jun vol.31 no.6 985-989	Original Article
93	Kageyama M, Abe S, Iwamatsu K, Nishida H, Koizumi S, Nasuno T, Yoneda S, Sakuma M, Inoue T.	心臓・血管内科	The different features of angiographic persistent contrast staining after implantation of sirolimus-eluting stents.	Clin Case Rep 2017 Mar vol.5 no.3 333-337	Original Article
94	Toyoda S, Haruyama A, Inami S, Amano H, Arikawa T, Sakuma M, Abe S, Tanaka A, Node K, Inoue T.	心臓・血管内科	Protective effects of bisoprolol against myocardial injury and pulmonary dysfunction in patients with chronic heart failure.	Int J Cardiol 2017 Jan vol.226 71-76	Original Article
95	Inoue T.	心臓・血管内科	Ischemia-reperfusion injury is still a big hurdle to overcome for treatment of acute myocardial infarction.	J Cardiol 2016 Apr vol.67 305-306	Original Article

96	Arikawa T, Toyoda S, Haruyama A, Amano H, Inami S, Otani N, Sakuma M, Taguchi I, Abe S, Node K, Inoue T.	心臓・血管内科	Impact of obstructive sleep apnoea on heart failure with preserved ejection fraction.	Heart Lung Circ 2016 May vol.25 no.5 435-441	Original Article
97	Masawa T, Abe S, Toyoda S, Sakuma M, Nasuno T, Kageyama M, Tokura M, Koizumi S, Taguchi I, Inoue T.	心臓・血管内科	Comparison of the performance of zotarolimus- and everolimus-eluting stents by optical coherence tomography and coronary angioscopy.	Heart Vessels 2016 Aug vol.31 no.8 1230-1238	Original Article
98	Toyoda S, Takekawa H, Asakawa Y, Suzuki A, Otani N, Sakuma M, Abe S, Hirata K, Inoue T.	心臓・血管内科	Comparison of carotid artery ultrasonography findings between acute coronary syndrome and atherothrombotic cerebral infarction.	J Med Ultrason 2017 Mar オンライン	Original Article
99	Yano H, Horinaka S, Ishikawa M, Ishimitsu T	循環器・腎臓内科	The efficacy of everolimus-eluting stent implantation in patients with ST-segment elevation myocardial infarction: outcomes of 2-year clinical follow-up	Heart Vessels 2016 Oct vol.31 no.10 1609-1615	Original Article
100	Otani R, Uzuka T, Ueki K	腫瘍センター	Classification of adult diffuse gliomas by molecular markers—a short review with historical footnote	Jpn J Clin Oncol 2017 Jan vol.47 no.1	Review
101	Nakajima T, Yasuda T, Koide S, Yamasoba T, Obi S, Toyoda S, Sato Y, Inoue T, Kano Y.	ハートセンター	Repetitive restriction of muscle blood flow enhances mTOR signaling pathways in a rat model.	Heart Vessels 2016 Oct vol. 31 no.10 1685-1695	Original Article
102	Tomonori Yamanishi	排泄機能センター	Editorial Comment to Effectiveness and safety of silodosin in the treatment of lower urinary tract symptoms in patients with benign prostatic hyperplasia: A European phase IV clinical study (SiRE study).	International Journal of Urology 2016 Jul vol.23 no.7 580	Review

103	Aoki C, Tanaka S, Suzuki K, Sagara M, Aso Y.	内分泌代謝内科	Primary Adrenal Leiomyosarcoma in an Aged Japanese Woman: A Rare Case Report	J Clin Case Rep 2017 Jan vol.7 no.3 1-4	Case report
104	Suzuki K, Katsura D, Sagara M, Aoki C, Nishida M, Aso Y.	内分泌代謝内科	Postprandial Reactive Hypoglycemia Treated with a Low-dose Alphaglucoosidase Inhibitor: Voglibose May Suppress Oxidative Stress and Prevent Endothelial Dysfunction.	Intern Med 2016 Aug vol.55 949-953	Case report
105	Sagara M, Suzuki K, Aoki C, Tanaka S, Taguchi I, Inoue T, Aso Y.	内分泌代謝内科	Impact of teneligliptin on oxidative stress and endothelial function in type 2 diabetes patients with chronic kidney disease: a case-control study.	Cardiovasc Diabetol. 2016 May vol.15 76-85	Original Article
106	Aoki C, Suzuki K, Kuroda H, Sagara M, Shimizu M, Kasai K, Aso Y.	内分泌代謝内科	Fixed-dose combination of alogliptin/pioglitazone improves glycemic control in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus independent of body mass index. Fixed-dose combination of alogliptin/pioglitazone improves glycemic control in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus independent of body mass index.	Nagoya J Med Sci. 2017 Feb vol.79	Original Article
107	Jojima T, Tomotsune T, Iijima T, Akimoto K, Suzuki K, Aso Y.	内分泌代謝内科	Empagliflozin (an SGLT2 inhibitor), alone or in combination with linagliptin (a DPP-4 inhibitor), prevents steatohepatitis in a novel mouse model of non-alcoholic steatohepatitis and diabetes.	Diabetol Metab Syndr. 2016 Jul vol.8 no.45 1-11	Original Article

108	Suzuki K, Sagara M, Aoki C, Tanaka S, Aso Y.	内分泌代謝内科	Clinical Implication of Plasma Hydrogen Sulfide Levels in Japanese Patients with Type 2 Diabetes.	Intern Med 2017 Jan vol.56 17-21	Original Article
-----	----------------------------------------------	---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------	------------------

計108件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○有・無
・ 手順書の主な内容 本学の倫理審査委員会について、審査の流れ・手続きについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反管理委員会について、利益相反管理委員会の審査の流れ	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回 (持回審査のみ)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回 (及びe-learning)
・ 研修の主な内容 講習会：医学研究に関する指針等について、本学倫理審査委員会について e-learning教材「CITI Japan」：医学研究者標準コースの履修	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1. 初期臨床研修

当院では初期臨床研修制度に規定される、基幹型臨床研修病院（大学病院）として、2年間の初期研修医教育を行っています。

プライマリ・ケアの習得を目的に、当院が擁する30診療科と臨床研修協力病院からなる病院群で研修を行うことにより、頻度の高い症例から高度医療まで網羅し、幅の広い臨床研修を行うことを可能としております。

当院における高度の医療に関する研修については、各診療科とも開業医及び市中病院より病診連携による紹介患者の受入れを実施しており、各種移植手術等の高難度手術適応患者の受入れや高度がん治療適用患者の受入れ、特定疾患治療等に代表される高度医療を実施し、同時に初期研修医・専攻医の診療参加および研修指導を実施しています。また、救急科研修においては当院の救命救急センターにて、救急車やドクターヘリによる3次救急患者（外傷・内疾患）の高度救命治療も研修カリキュラムの一環として組み込んでいます。

2. 専門研修

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして後期研修に続きます。

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして後期研修に続きます。

当院の後期研修は、大学病院として各種学会認定施設を取得し、各領域別の専門分野での充実した研修と高度で良質な医療を提供できる専門医の育成を目標としています。

当院レジデントプログラムはこれらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした教育プログラムとして42の後期研修プログラムを備え、高度な研修を実施しています。

【専門研修コース一覧】

心臓・血管内科

- ・心臓・血管内科不整脈部門専門医コース
- ・心臓・血管内科心不全部門専門医コース
- ・心臓・血管内科虚血部門専門医コース

消化器内科

- ・消化器病学会専門医コース

血液・腫瘍内科

- ・日本血液学会専門医コース

循環器・腎臓内科

- ・循環器専門医育成コース
- ・腎臓・透析専門医育成コース

神経内科

- ・日本脳卒中学会専門医コース
- ・日本頭痛学会専門医コース
- ・日本神経学会専門医コース

内分泌代謝内科

- ・糖尿病専門医養成コース
- ・内分泌代謝科専門医養成コース

呼吸器・アレルギー内科

- ・呼吸器専門医コース
- ・腫瘍内科医（呼吸器系）専門医コース
- ・呼吸器内視鏡専門医コース
- ・リウマチ・膠原病内科専門医コース
- ・日本アレルギー学会専門医コース

精神神経科

- ・精神科指導医コース

皮膚科

- ・日本皮膚科学会専門医コース

放射線科

- ・放射線科専門医コース

小児科

- ・小児科専門医コース

第一外科

- ・日本外科学会専門医コース

第二外科

- ・消化器外科専門医コース
- ・肝胆膵高度技能医コース

心臓・血管外科

- ・心臓血管外科専門医取得コース

呼吸器外科

- ・呼吸器外科専門医取得コース

脳神経外科

- ・脳神経外科専門医取得コース

整形外科

- ・日本整形外科学会専門医取得コース
- ・日本脊椎脊髄病学会認定・脊椎脊髄外科指導医取得コース

泌尿器科

- ・泌尿器科専門医取得コース

眼科

- ・眼科専門医研修コース

耳鼻咽喉・頭頸部外科

- ・耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成コース

産科婦人科

- ・産科婦人科専門医（婦人科腫瘍）コース
- ・産科婦人科専門医（生殖医療）コース

麻酔部

- ・麻酔科専門医コース

救急医学

- ・救急・集中治療専門医コース

口腔外科

- ・口腔外科専門医取得コース

リハビリテーション科

- ・リハビリテーション科専門医コース

健康管理科
 ・消化器がん検診認定医コース
 形成外科・美容外科
 ・形成外科専門医養成コース
 感染制御・臨床検査医学
 ・臨床検査専門医コース
 病理部
 ・病理専門医コース

2 研修の実績

研修医の人数	96人（初期臨床研修歯科医7名含む）
--------	--------------------

（注）前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者（ ）内は院内標榜科名

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊田 茂	心臓・血管内科	臨床研修主任指導医	23年	
室久 俊光	消化器内科	臨床研修主任指導医	31年	
高橋 渉	血液・腫瘍内科	臨床研修主任指導医	17年	
堀中 繁夫	循環器・腎臓内科	臨床研修主任指導医	34年	
門脇 太郎	神経内科	臨床研修主任指導医	15年	
鈴木 國弘	内分泌代謝内科	臨床研修主任指導医	14年	
三好 祐顕	呼吸器・アレルギー内科	臨床研修主任指導医	19年	
大和田 高義	リウマチ膠原病内科	臨床研修主任指導医	18年	
志水 太郎	総合診療科	臨床研修主任指導医	11年	
大曾根 彰	精神科 （精神神経科）	臨床研修主任指導医	31年	
籠持 淳	皮膚科	臨床研修主任指導医	38年	
桑島 成子	放射線科	臨床研修主任指導医	32年	
今高 城治	小児科	臨床研修主任指導医	33年	
佐々木 欣郎	外科・小児外科	臨床研修主任指導医		

窪田 敬一	(第1外科) 外科	臨床研修主任指導医	30年
渡邊 久美子	(第2外科) 乳腺科	臨床研修主任指導医	35年
柴崎 郁子	心臓・血管外科	臨床研修主任指導医	20年
佐渡 哲	呼吸器外科	臨床研修主任指導医	21年
金 彪	脳神経外科	臨床研修主任指導医	22年
種市 洋	整形外科	臨床研修主任指導医	36年
安土 正裕	泌尿器科	臨床研修主任指導医	30年
宮下 博行	眼科	臨床研修主任指導医	25年
中島 逸男	頭頸部・耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)	臨床研修主任指導医	21年
茂木 絵美	産婦人科 (産科婦人科)	臨床研修主任指導医	7年
内田 大亮	歯科口腔外科 (口腔外科)	臨床研修主任指導医	21年
鈴木 大雅	リハビリテーション科	臨床研修主任指導医	30年
福田 憲翁	形成外科・美容外科	臨床研修主任指導医	16年
濱口 眞輔	麻酔科	臨床研修主任指導医	27年
根本 真人	救急科 (救命救急センター)	臨床研修主任指導医	19年
渡邊 菜穂美	健康管理科	臨床研修主任指導医	25年
中里 宜正	病理診断科	臨床研修主任指導医	18年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・ 研修の主な内容 1

臨地実習終了報告会（病理部と合同）

・ 研修の期間・実施回数：平成28年7月1日

・ 研修の参加人数：42名

・ 研修の主な内容 2

第36回栃木県医学検査学会 予演会

・ 研修の期間・実施回数：平成28年10月24日

・ 研修の参加人数：30名

・ 研修の主な内容 3

第36回栃木県医学検査学会 予演会

・ 研修の期間・実施回数：平成28年10月26日

・ 研修の参加人数：31名

・ 研修の主な内容 4

基本的な精度管理の考え方

・ 研修の期間・実施回数：平成29年2月21日

・ 研修の参加人数：40名

・ 研修の主な内容 5

国公立医科大学・私立医科大学出張報告会

・ 研修の期間・実施回数：平成29年3月8日

・ 研修の参加人数：42名

・ 研修の主な内容 6

臨地実習終了報告会（病理部と合同）

・研修の期間・実施回数：平成29年3月24日

・研修の参加人数：39名

・研修の主な内容 7

・平成28年度 第1回放射線部勉強会

「平成27年度獨協医科大学医療安全管理者養成講習会に参加して」

「平成27年度日本医師会医療安全推進者養成講座に参加して」

「医療情報化基盤セミナーに参加して」

・研修の期間・実施回数：平成28年4月28日 17：30～18：30

・研修の参加人数：37名

・研修の主な内容 8

・平成28年度 第2回放射線部勉強会

(平成28年度関東甲信越診療放射線技師学会学術大会予行)

「散乱線補正処理を使用した適正線量及び補正の強さの検討」

「乳幼児専用コイル(Pediatric16ch)の有用性の検討」

・研修の期間・実施回数：平成28年5月11日 17：30～18：00

・研修の参加人数：20名

・研修の主な内容 9

・平成28年度 第3回放射線部勉強会

「標準予防策と手洗い（演習）」

・研修の期間・実施回数：平成28年5月24日及び6月7日のいずれか 17：30～18：30

・研修の参加人数：71名

・研修の主な内容 10

・平成28年度 第4回放射線部勉強会

「X線線量情報一元化管理システム」

「第19回日本臨床救急医学総会・学術集会参加報告」

・研修の期間・実施回数：平成28年6月28日 17：30～18：30

・研修の参加人数：35名

・研修の主な内容 11

・平成28年度 第5回放射線部勉強会

「患者介助について」（転倒・転落防止対策）

・研修の期間・実施回数：平成28年7月13日 17：30～18：30

・研修の参加人数：22名

・研修の主な内容 12

・平成28年度 第6回放射線部勉強会

「ハラスメントDVD研修」（気づこう。パワーハラスメント）

・研修の期間・実施回数：平成28年7月21日、26日、28日 16：45～17：15

・研修の参加人数：67名

・研修の主な内容 13

・平成28年度 第7回放射線部勉強会

「平成28年度獨協医科大学医療安全管理者養成講習会に参加して」

「研究と発表」（とりあえずやってみよう）

・研修の期間・実施回数：平成28年9月6日 17：30～18：30

・研修の参加人数：40名

・研修の主な内容 14

・平成28年度 第8回放射線部勉強会

「第6回診療放射線技師新人研修会に参加して」

「平成28年死亡時画像診断（Ai）研修会に参加して」

・研修の期間・実施回数：平成28年9月28日 17：30～18：30

・研修の参加人数：32名

・研修の主な内容 15

・平成28年度 第9回放射線部勉強会

「平成28年度結核予防技術者地区研修会に参加して

(「最大級の感染症」にどう対策するのか?)

「平成28年度栃木県DMAT養成研修に参加して」

・研修の期間・実施回数：平成28年10月25日 17：30～18：30

・研修の参加人数：24名

・研修の主な内容 16

・平成28年度 第10回放射線部勉強会

「第2回簡易線量計作成セミナーに参加して」

「東芝CT装置（画像再構成 AIDR～FIST）について

・研修の期間・実施回数：平成28年11月9日 17：30～18：30

・研修の参加人数：33名

・研修の主な内容 17

・平成28年度 第11回放射線部勉強会

「MRI/PETの現状」

・研修の期間・実施回数：平成28年11月17日 17：30～18：30

・研修の参加人数：41名

・研修の主な内容 18

・平成28年度 第12回放射線部勉強会

「循環器CTセミナー2016に参加して」

「平成28年国公立大学病院医療技術関係職員研修に参加して」

・研修の期間・実施回数：平成28年11月22日 17：30～18：30

・研修の参加人数：22名

・研修の主な内容 19

・平成28年度 第1回放射線部役職者研修会

「管理職がパワハラ加害者にならないために」

(DVD研修及びデスカッション)

・研修の期間・実施回数：平成28年11月24日 16：45～17：15

・研修の参加人数：20名

・研修の主な内容 20

・平成28年度 第13回放射線部勉強会

「検像システムの概要及びデモ機による説明」

「画像入出力システムの概要及びデモ機による説明」

・研修の期間・実施回数：平成28年12月1日、2日のいずれか 17：30～18：30

・研修の参加人数：45名

・研修の主な内容 21

・平成28年度 第15回放射線部勉強会 (DVD講習会)

「事例で考えるパワハラ・グレイゾーン」

・研修の期間・実施回数：平成28年12月12日、13日、14日、15日いずれか 15：00～17：45の
中の30分

・研修の参加人数：97名

・研修の主な内容 22

・平成28年度 第15回放射線部勉強会 (DVD講習会)

「経路別予防策について」

「放射線管理委員会 活動報告」

・研修の期間・実施回数：平成28年12月21日 17：30～18：30

・研修の参加人数：26名

・研修の主な内容 23

・平成28年度 第18回放射線部勉強会 (第63回関東支部研究発表会予行)

「乳幼児専用コイル Pediatric 16ch Coilの有用性」

「散乱線低減処理を使用した胸部正面撮影における撮影条件の最適化」

「回転型強度変調放射線治療における膀胱容量の測定」

「前立腺IMRT位置照合におけるCBCT被ばく線量低減の検討」

「CT検査における患者防護衣の放射線防護効果」

・研修の期間・実施回数：平成29年1月19日 17：15～18：30

・研修の参加人数：33名

・研修の主な内容 24

・平成28年度 第2回放射線部役職者研修会

「診療報酬改定のポイント」

・研修の期間・実施回数：平成29年1月20日 17：15～18：15

・研修の参加人数：17名

・研修の主な内容 25

・平成28年度 第19回放射線部勉強会

「急変時における周辺機器の使い方」（患者モニター、AED）

・研修の期間・実施回数：平成29年2月7日 17：15～18：30

・研修の参加人数：21名

・研修の主な内容 26

・平成28年度 第20回放射線部勉強会

「第36回医療情報学会連合大会参加報告」

「東芝CTの最新情報・Aquilion 最新Topic ～RSNA報告含め～」

・研修の期間・実施回数：平成29年2月16日 17：15～18：15

・研修の参加人数：37名

・研修の主な内容 27

・平成28年度 第21回放射線部勉強会（第12回栃木県診療放射線技師会学術発表会予行）

「TAVI術前CTについて」

「再構成関数がCT-AECに与える影響」

「Biograph mCT Flowの使用経験」

「Simultaneous Multi-Slice (SMS) を用いたHead Neck coil 64ch・20chのSNR及び
g-factorの比較」

「後湾症患者に対するCXDIワンショット長尺を使用した全脊椎側面撮影の有用性」

「OPE室における散乱線低減処理を使用した胸部正面撮影条件の検討」

「放射線部における『人材育成プログラム』の運用について」

「新デバイスにおけるカテーテル術者水晶体等価線量の評価」

「当院透視検査における職業被ばくの報告」

「前立腺IMRT位置照合における撮影条件最適化の検討」

・ 研修の期間・実施回数：平成29年2月23日 17：15～18：30

・ 研修の参加人数：23名

・ 研修の主な内容 28

・ 平成28年度 第22回放射線部勉強会

「第22回日本集団災害医学会総会・学術集会に参加して」

「ITEM事前説明会」

・ 研修の期間・実施回数：平成29年3月9日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：19名

・ 研修の主な内容 29

・ 平成28年度 第23回放射線部勉強会

「CT装置説明会」（装置メーカー4社）

・ 研修の期間・実施回数：平成29年3月16日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：26名

・ 研修の主な内容 30

・ 平成28年度 第24回放射線部勉強会

「ハラスメントアンケート結果報告」

「職場内におけるメンタルヘルスケア」

「2階放射線部の災害対策マニュアル（修正案）」

・研修の期間・実施回数：平成29年3月28日 17：30～18：30

・研修の参加人数：55名

・研修の主な内容 31

・新規採用医薬品についての研修（静注看護師のための注射剤と抗がん剤の基礎知識他）

・研修の期間・実施回数：21回

・研修の参加人数：1回30～40名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容 1

・臨床検査センター全体集会、H27年度インシデント報告まとめ

ISO 15189 審査に関する報告事項

・研修の期間・実施回数：平成28年4月8日

・研修の参加人数：69名

・研修の主な内容 2

・技術的要求事項の課題・修正点、品質マニュアルについて

・研修の期間・実施回数：平成28年6月2日

・研修の参加人数：61名

・研修の主な内容 3

・①臨床検査システムとそのダウン対策について

②採血時のインシデント事例報告とシステムダウン時の対応について

③ISO 15189審査（予備訪問・本審査）の対応

・研修の期間・実施回数：平成28年6月29日

・研修の参加人数：55名

・研修の主な内容 4

・ISO手順書におけるリスト（LI）と報告書（RE）の注意点

・研修の期間・実施回数：平成28年7月26・28日

・研修の参加人数：合計77名

・研修の主な内容 5

・平成28年度年末年始業務連絡会

・研修の期間・実施回数：平成28年12月21日

・研修の参加人数：40名

・研修の主な内容 6

・宿日直輸血検査連絡事項19

・研修の期間・実施回数：平成29年1月13・16日

・研修の参加人数：合計69名

・研修の主な内容 7

・倫理規定、患者情報の守秘義務

・研修の期間・実施回数：平成29年2月1日

・研修の参加人数：91名

・研修の主な内容 8

・廃棄物管理、毒物・劇物管理

・研修の期間・実施回数：平成29年2月10日

・研修の参加人数：90名

・研修の主な内容 9

・感染対策

・研修の期間・実施回数：平成29年3月15日

・研修の参加人数：88名

・ 研修の主な内容 10

- ・ ①患者急変時の対応について
- ・ ②災害時、緊急時の対応
- ・ 研修の期間・実施回数：平成29年3月28日

・ 研修の参加人数：88名

・ 研修の主な内容 11

- ・ 平成28年度 第14回放射線部勉強会

「臨床実習9名による『臨床実習で習得したこと』」

「病院実習成果発表（MRI部門）自作Sad Pad の脂肪抑制効果について」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成28年12月8日 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：51名

・ 研修の主な内容 12

- ・ 放射線部装置説明会

「検像装置説明会」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成29年1月7日、18日いずれか 17：30～18：30

・ 研修の参加人数：51名

・ 研修の主な内容 13

- ・ 放射線部装置説明会

「画像入出力室レイ操作説明会」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成29年2月9日、10日いずれか 17：15～18：15

・ 研修の参加人数：13名

・ 研修の主な内容 14

- ・ 放射線部装置説明会

「CSH-PACS管理端末操作訓練」

- ・ 研修の期間・実施回数：平成29年9月10日、13日、14日、15日いずれか 17：30～18：30

・研修の参加人数：58名

・研修の主な内容 15

・平成28年度 第3回放射線部役職者研修会

「線量管理システム説明会」

・研修の期間・実施回数：平成29年2月28日 17：30～18：30

・研修の参加人数：16名

・研修の主な内容 16

・放射線部装置説明会

「X線線量情報一元管理システム説明会」

・研修の期間・実施回数：平成29年3月13日、14日、15日いずれか 17：30～18：30

・研修の参加人数：55名

・研修の主な内容 17

・新採用看護職者に関する研修

・研修の期間・実施回数：4月/6回

・研修の参加人数：384名

・研修の主な内容 18

・看護研究定例発表会

・研修の期間・実施回数：6月・11月/2回

・研修の参加人数：900名

・研修の主な内容 19

・主任研修会

・研修の期間・実施回数：6月～2月/5回

・研修の参加人数：206名

・研修の主な内容 20

・新人教育実施看護師研修

・研修の期間・実施回数：5～12月/5回

・研修の参加人数：358名

・研修の主な内容 21

・新人看護職員指導者研修

・研修の期間・実施回数：5～12月/6回（8月2回実施）

・研修の参加人数：158名

・研修の主な内容 22

・臨床実習指導者研修

・研修の期間・実施回数：4月～1月/4回

・研修の参加人数：272名

・研修の主な内容 23

・看護補助者研修（チームステップス・感染管理・救急看護）

・研修の期間・5～7月/3回

・研修の参加人数：263名

・研修の主な内容 24

・フレックシビリティに関する研修

・研修の期間・実施回数：5～12月/4回

・研修の参加人数：358名

・研修の主な内容 25

・老年期看護

・研修の期間・5～9月/4回

・研修の参加人数：388名

・研修の主な内容 26

・がん看護

・研修の期間・5～9月/4回

・研修の参加人数：255名

・研修の主な内容 27

・急性期看護

・研修の期間・6～10月/4回

・研修の参加人数：315名

・研修の主な内容 28

・慢性期看護

・研修の期間・5～9月/4回

・研修の参加人数：261名

・研修の主な内容 29

・レベル I a (看護記録・フィジカルアセスメント・緩和ケアなど)

・研修の期間・実施回数：4～12月/8回

・研修の参加人数：842名

・研修の主な内容 30

・レベル I b 静脈穿刺研修 (静脈注射委員会)

・研修の期間・実施回数：9月・10月/2回

・研修の参加人数：90名

・研修の主な内容 31

・レベル II (倫理・RCA分析・看護記録など)

・研修の期間・実施回数：4～11月/4回

・研修の参加人数：328名

・研修の主な内容 32

・レベル III a (看護研究)

・研修の期間・実施回数：4～11月/5回

・研修の参加人数：334名

・ 研修の主な内容 33

- ・ レベルⅢb（看護研究）
- ・ 研修の期間・実施回数：6～12月/4回
- ・ 研修の参加人数：220名

・ 研修の主な内容 34

- ・ 7年目看護師（倫理に関する研修）
- ・ 研修の期間・実施回数：4～10月/4回
- ・ 研修の参加人数：110名

・ 研修の主な内容 35

- ・ 経年別10年目看護師（リーダーシップに関する研修）
- ・ 研修の期間・実施回数：5. 7月/2回
- ・ 研修の参加人数：62名

・ 研修の主な内容 36

- ・ 経年別15年目看護師（看護研究）
- ・ 研修の期間・実施回数：6～12月/4回
- ・ 研修の参加人数：69名

・ 研修の主な内容 37

- ・ 経年別16年目看護師（看護研究）
- ・ 研修の期間・実施回数：6～10月/4回
- ・ 研修の参加人数：73名

・ 研修の主な内容 38

- ・ 経年別20年目看護師（フィジカルアセスメント）
- ・ 研修の期間・実施回数：5～11月/4回
- ・ 研修の参加人数：47名

・ 研修の主な内容 39

- ・ 経年別25年目看護師研修（倫理など）

- ・ 研修の期間・実施回数：5～7月/3回

- ・ 研修の参加人数：24名

- ・ 研修の主な内容 40

- ・ 中途採用者（看護部教育委員会主催）に関する研修

- ・ 研修の期間・実施回数：7月～11月/3回

- ・ 研修の参加人数：31名

- ・ 研修の主な内容 41

- ・ 感染防止（看護部ICT委員会）に関する研修

- ・ 研修の期間・実施回数：5月～2月/7回

- ・ 研修の参加人数：343名

- ・ 研修の主な内容 42

- ・ NST（看護部NST委員会含む・栄養サポートチーム）に関する研修

- ・ 研修の期間・実施回数：5月～12月/7回

- ・ 研修の参加人数：402名

- ・ 研修の主な内容 43

- ・ スキンケアに関する研修（看護部スキンケア委員会）

- ・ 研修の期間・実施回数：5月～3月/6回

- ・ 研修の参加人数：250名

- ・ 研修の主な内容 44

- ・ 医療安全に関する研修会（看護部医療安全委員会）

- ・ 研修の期間・実施回数：5月～3月/9回

- ・ 研修の参加人数：373名

- ・ 研修の主な内容 45

- ・ 口腔ケアに関する研修（看護部口腔ケア委員会）

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の期間・実施回数：5月～3月/9回 ・研修の参加人数：424名 ・<u>研修の主な内容 46</u> <ul style="list-style-type: none"> ・インジェクショントレーナー養成研修（看護部静脈注射委員会） ・研修の期間・実施回数：5月～3月/9回 ・研修の参加人数：424名 ・<u>研修の主な内容 47</u> <ul style="list-style-type: none"> ・インジェクショントレーナーフォローアップ研修（静脈注射委員会） ・研修の期間・実施回数：4月・5月/3回 ・研修の参加人数：119名 ・<u>研修の主な内容 48</u> <ul style="list-style-type: none"> ・インジェクショントレーナーシミュレーション研修（静脈注射委員会） ・研修の期間・実施回数：11月・12月/3回 ・研修の参加人数：24名 ・<u>研修の主な内容 49</u> <ul style="list-style-type: none"> ・退院支援リンクナース研修会（退院支援委員会） ・研修の期間・実施回数：5月～2月/8回 ・研修の参加人数：320名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状																				
管理責任者氏名	病院長 平石秀幸																				
管理担当者氏名	<table border="0"> <tr> <td>庶務課</td> <td>鶴見 好邦</td> <td>医事保険課</td> <td>永吉 誠</td> </tr> <tr> <td>診療記録管理部</td> <td>白川 幸央</td> <td>医療安全推進センター</td> <td>金子 一</td> </tr> <tr> <td>総合医療連携室</td> <td>落合 守広</td> <td>感染制御センター</td> <td>小川 栄一</td> </tr> <tr> <td>経理課</td> <td>篠原 尚</td> <td>臨床研修センター</td> <td>賀長 隆</td> </tr> <tr> <td>薬剤部</td> <td>本田 雅巳</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	庶務課	鶴見 好邦	医事保険課	永吉 誠	診療記録管理部	白川 幸央	医療安全推進センター	金子 一	総合医療連携室	落合 守広	感染制御センター	小川 栄一	経理課	篠原 尚	臨床研修センター	賀長 隆	薬剤部	本田 雅巳		
庶務課	鶴見 好邦	医事保険課	永吉 誠																		
診療記録管理部	白川 幸央	医療安全推進センター	金子 一																		
総合医療連携室	落合 守広	感染制御センター	小川 栄一																		
経理課	篠原 尚	臨床研修センター	賀長 隆																		
薬剤部	本田 雅巳																				

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	庶務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療記録管理部
		看護記録	診療記録管理部
		検査所見記録	診療記録管理部
		エックス線写真	診療記録管理部
		紹介状	診療記録管理部
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録管理部	診療録は、1患者1ID制で診療記録管理部が1元管理しており、電子カルテについては、真正性・見読性・保存性の確保に基づき、医療情報委員会が運用・管理している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としており、やむを得ず、院外に持ち出す場合には、匿名化されている情報については所属長、匿名化されていない情報は所定の申請書により所属長及び病院長の許可を得ることになっている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事保険課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課
		高度の医療の研修の実績	庶務課 臨床研修センター
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	総合医療連携室 医事保険課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部
一 規則第一条の十一第一	高に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進センター
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進センター
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部 経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	庶務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進センター
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進センター 感染制御センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進センター
		職員研修の実施状況	庶務課 医療安全推進センター 感染制御センター SDセンター
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進センター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 平石 秀幸
閲覧担当者氏名	庶務課長 鶴見 好邦
閲覧の求めに応じる場所	事務部
閲覧の手続の概要 ① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出。 ② ①により、病院長までの上申。 ③ ②により、本人確認（身分証明書等の提示）の後に情報開示。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：①医療安全管理に関する基本的な考え方<ul style="list-style-type: none">②組織に関する基本的事項③医療安全管理委員会の設置に関する基本方針④医療安全推進センターの設置に関する基本方針⑤監査委員会による外部監査に関する基本方針⑥特定機能病院間相互のピアレビューに関する基本方針⑦医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針⑧事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針⑨医療事故発生時の対応に関する基本方針⑩高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の医療提供に関する基本方針⑪患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針⑫患者からの相談への対応に関する基本方針⑬その他医療安全の推進のために必要な基本方針⑭本指針の改廃	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (○有・無)・ 開催状況：年 1 2 回・ 活動の主な内容：①医療に係る安全管理のための指針(基本方針)に関すること<ul style="list-style-type: none">②医療安全管理委員会の規程に関すること③医療安全対策の検討及び研究に関すること④医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること⑤医療安全対策のための職員に対する指示に関すること⑥医療安全対策のために行う提言に関すること⑦医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること⑧監査委員会からの私指摘に関すること⑨内部通報窓口の設置に関すること	

⑩医療安全に関する診療内容のモニタリングに関すること

⑪その他医療安全対策に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年11回

・ 研修の主な内容：

○新入教職員研修 ①平成28年4月 1日（金）午後2時30分から3時30分

（対象者：平成28年度新入教職員・医療従事者・看護師等）

②平成28年4月9日（土）午前10時から11時

（対象者：平成28年度新臨床研修医）

形態：オリエンテーション

講師：①医療安全推進センター 安全管理者 橋本 美雪

②医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人

演題：①「当院での医療安全の取り組みについて」

②「医療安全講習会 臨床研修医」

内容：「当院の医療安全体制」について解説がなされた。

参加者：①133名

③ 53名

○第1回 開催日：平成28年5月30日（水）

午後5時30分から午後6時30分

形態：講習会

講師：医療福祉相談室 医療ソーシャルワーカー 東野 怜奈 先生

演題：「これってDV？児童虐待？」

内容：DVと児童虐待について解説がなされた。

参加者：一般教職員789名

○第2回 開催日：平成28年6月8日（水）

午後5時30分から午後6時30分

形態：講習会

講師：①放射線部 今野 智史 氏

②放射線科 教授 楫 靖 教授

演題：①「眼の水晶体の放射線影響と線量限度に関する最近の動向」

②「医療被ばくに関する基本的な考え方」

内 容：「眼の水晶体の放射線影響」と「医療被ばく」について解説がなされた。

参加者：495名

○第3回 開催日：平成28年6月21日（火）

午後5時30分から6時30分

形 態：講習会

講 師：東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルマネジメント室
上席研究員 看護師 恩田 清美 先生

演 題：医療現場における個人情報の取り扱い

内 容：医療現場における個人情報について解説がなされた。

参加者：738名

○第4回 開催日：平成28年7月7日（木）

午後5時15分から午後6時15分

形 態：講習会

講 師：がん・感染症センター 都立駒込病院
輸血・細胞治療科 森山 昌彦 技師

演 題：「輸血療法の安全管理」

内 容：輸血療法の安全管理について解説がなされた。

参加者：543名

○第5回 開催日：平成28年7月8日（金）

午後5時から6時

形 態：講習会

講 師：①医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人 先生
②教育支援センター 医事法制研究室 講師 上杉 奈々 先生

演 題：「薬剤に関するインシデント事例の課題と対策」

内 容：薬剤のインシデント事例について解説がなされた。

参加者：445名

○第6回 開催日：平成28年9月12日（月）

午後5時30分から午後6時30分

形 態：講習会

講 師：京都大学 医学部附属病院 医療安全管理室長（検査部 病院教授）
（日本医療安全学会理事）松村 由美 先生

演 題：「インフォームド・コンセントの重要性について『説明と同意』と『インフォームド・コンセント』は何がどう違うのか？」

内 容：インフォームド・コンセントの重要性について解説がなされた。

参加者：725名

○第6回 開催日：1日目 平成28年10月3日（月）

2日目 平成28年10月11日（火）

3日目 平成28年10月17日（月）

4日目 平成28年10月19日（水）

5日目 平成28年10月20日（木）

6日目 平成29年 3月10日（金）

形 態：講習会（DVD放映会）

講 師：京都大学 医学部附属病院 医療安全管理室長（検査部 病院教授）
（日本医療安全学会理事）松村 由美 先生

演 題：インフォームド・コンセントの重要性について『説明と同意』と『インフォームド・コンセント』は何がどう違うのか？」

内 容：インフォームド・コンセントの重要性について解説がなされた。

参加者：1日目 180名 2日目 135名 3日目 155名

4日目 109名 5日目 122名 6日目 299名

○第7回 開催日：平成28年9月28日（水）

午後5時から午後6時

形 態：講習会

講 師：薬剤部 部長 本田 雅巳 先生

演 題：「副作用被害救済制度と今後の医薬品安全管理について」

内 容：今後の医薬品管理について解説がなされた。

参加者：222名

○第8回 開催日：平成28年11月21日（月）

午後5時10分～6時10分

形 態：講習会

講 師：①災害医療整備コーディネーター 林 洋克 先生

②救急医学 鍛 良之 先生

③精神神経科 藤平 明広 先生

- 演 題：①「DMAT ロジスティックチームの活動報告」－熊本地震－
②「日本集団災害医学会災害医療コーディネートサポートチーム活動報告」
③「平成28年熊本地震における DPAT 活動」

内 容：熊本地震における活動について報告がなされた。

参加者：152名

○第9回 開催日：平成29年1月23日（月）

午後5時30分～6時30分

形 態：講習会

講 師：①放射線部 看護師 高山 友子 主任

②広島大学大学院 放射線診断学研究室 粟井 和夫 教授

演 題：①「放射線部における造影 CT 前のチェックポイント」

②「CT,MRI 等の造影検査の安全対策」

内 容：造影検査について報告がなされた。

参加者：167名

○第10回 開催日：平成29年3月16日（木）

午後5時15分～6時15分

形 態：講習会

講 師：輸血部 篠原 茂 技師

輸血部 高橋 渉 先生

演 題：「輸血関連インシデント事例報告」

内 容：輸血関連インシデント事例内容、要因、再発防止の取り組みについて解説
がなされた。

参加者：92名

○第11回 開催日：平成29年3月22日（水）

午後5時～6時

形 態：講習会

講 師：①医療安全管理責任者 窪田 敬一 先生

②医療機器安全管理責任者 小野 一之 先生

③医薬品安全管理責任者 本田 雅巳 先生

演 題：「特定機能病院の承認要件について」

内 容：特定機能病院の承認要件について報告がなされた。

参加者：1404名

○ビデオ視聴

形態：医療安全推進センター管理ビデオ視聴

視聴者数：633名(平成29年5月1日現在)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（○有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【タイトル】

看護師による男性患者の尿道留置カテーテル挿入後の陰茎浮腫

【情報】

- ・ 看護師が男性の尿道カテーテルを留置してはいけないという法律はない。しかしながら、教育課程の多くや当院の卒後教育では女性の留置手技は行うが男性の手技は行っていない。

近隣の大学病院に確認した結果、看護師は男性の尿道カテーテル留置の手技は行っていないという回答であった。

- ・ 自己導尿の患者に対して指導・介助を行っているので、緊急入院、緊急手術時や医師が多忙・不在時には看護師が挿入していることがあった。これまでに同様の症状を呈する患者がいなかった。仮性包茎の患者の看護に対する知識が不足していた。

【事例概要】

患者は43歳男性。右被殻出血にて7/14に入院した。7/23尿道留置カテーテルを抜去後に尿閉があり、7/24、10時再挿入を看護師が行った。その後、オムツ交換等を数回行うが、陰茎浮腫等の異状は確認されていなかった。7/25、10時の清拭時に陰茎の浮腫に気づき主治医診察後、泌尿器科依頼した。用手整復を試みたが困難なため病棟にて局所麻酔下で切開術を行った。

【検証】

- ・ 当該病棟では、正看護師28人中3人が尿道留置カテーテル挿入の経験がある。その3人は他施設での勤務経験があり、他施設に在職中に、尿道留置カテーテル挿入を経験していた。
- ・ 緊急入院や緊急手術・検査・治療を行う時に、尿道留置カテーテル挿入を施行することが多い。
- ・ 手術室で、緊急手術を実施する時に看護師が尿道留置カテーテル挿入を施行することがある。
- ・ 看護部が作成した看護手順（基本的看護技術）と新人看護職員研修ガイドの排泄機能技術の「膀胱留置カテーテルの挿入と管理」の留意点に、「男性のバルンカテーテル挿入は医師が行う」と記載しており、卒後教育は実施していないため経験者がほとんどいない状況である。

<臨床の問題点>

- ・尿道留置カテーテル挿入において、看護師の技術・知識の教育が不十分であり、すぐに実施することは困難である。手順書を変更しても、手順書通りにすぐに実施することは困難である。
- ・尿道留置カテーテル挿入を医師が必ず行うためには、マンパワー不足がある。

【改善策】

男性の尿道カテーテル挿入の方法について当該病棟で話し合いを行った。その結果、男性の尿道カテーテル留置・導尿は医師が行うことを医局・病棟で周知した。その事例をもとに医療安全管理部門会議で検討し、さらに医療安全管理委員会で対策を検討した。

以下の対策を行うことになった。

1 本年度中に看護部リスクマネージャー委員会と泌尿器科にて、学習会（講義・演習）を行い次年度より実施できるように計画していく。

1 医療安全推進センターが介入し、安全な手技の習得を目指す。

1 感染制御センターが介入し、感染予防対策を踏まえた手技の習得を目指す。

【現在】

- ・同インシデント報告はない。
- ・本年度中に看護部リスクマネージャー委員会が主体となり、泌尿器科・感染制御センターとともに学習会（講義・演習）を行い次年度より実施できるようにする。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○有・無																								
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>制定：平成19年10月1日 改訂：平成24年1月18日 改訂：平成27年10月1日</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染防止対策に関する基本的な考え方・ 院内感染防止に関する基本的事項・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針・ 感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針・ 施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針・ 患者等に対する当該指針の閲覧にする基本方針・ 患者からの相談への対応に関する基本方針・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針																									
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回																								
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 院内ラウンドの報告2) 病原体の検出報告（MRSA、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌、CDの検出状況等）3) 感染症治療薬使用状況（毎月の抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬）4) 届出感染症等の発生報告5) その他 <p>・ 開催状況：</p> <table border="0"><tr><td>第1回</td><td>平成28年4月26日</td><td>第7回</td><td>平成28年10月25日</td></tr><tr><td>第2回</td><td>平成28年5月24日</td><td>第8回</td><td>平成28年11月29日</td></tr><tr><td>第3回</td><td>平成28年6月28日</td><td>第9回</td><td>平成28年12月27日</td></tr><tr><td>第4回</td><td>平成28年7月26日</td><td>第10回</td><td>平成29年 1月31日</td></tr><tr><td>第5回</td><td>平成28年8月30日</td><td>第11回</td><td>平成29年 2月28日</td></tr><tr><td>第6回</td><td>平成28年9月27日</td><td>第12回</td><td>平成29年 3月28日</td></tr></table>		第1回	平成28年4月26日	第7回	平成28年10月25日	第2回	平成28年5月24日	第8回	平成28年11月29日	第3回	平成28年6月28日	第9回	平成28年12月27日	第4回	平成28年7月26日	第10回	平成29年 1月31日	第5回	平成28年8月30日	第11回	平成29年 2月28日	第6回	平成28年9月27日	第12回	平成29年 3月28日
第1回	平成28年4月26日	第7回	平成28年10月25日																						
第2回	平成28年5月24日	第8回	平成28年11月29日																						
第3回	平成28年6月28日	第9回	平成28年12月27日																						
第4回	平成28年7月26日	第10回	平成29年 1月31日																						
第5回	平成28年8月30日	第11回	平成29年 2月28日																						
第6回	平成28年9月27日	第12回	平成29年 3月28日																						
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	全教職員対象 年5回																								
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○研修医オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日 時：平成28年4月 8日(金) 9:00～17:00 平成28年4月11日(月) 15:00～17:00・ 場 所：教育医療棟6階 会議室・ 演習・講義：『手洗いと手指消毒効果』・『N95マスクフィットテスト』・『PPE着脱』 『針刺し・切創事例届出』『症例シミュレーション』 演習手洗いと手指消毒効果判定, グループ討論、講義 『抗菌薬の基礎』・ 講 師：感染制御センタースタッフ（医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師など）・ 受講数： 53名 <p>○新規採用者オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日程及び内容：採用月に30分程度実施・ 対象者：医師（後期研修医含）、医療従事者、事務など・ 場 所：病院3階中会議室No.2、他・ 講 義：「身近にある感染の危険性」・ 演 習：「N95マスクの正しい脱着」（医師のみ）・ 講 師：早川千亜紀（感染制御センター・感染制御実践看護師）・ 受講数：医師 27名、医療従事者・事務など 32名																									

○新規採用者・復帰者オリエンテーション

- ・日 程：平成28年8月8日(月)、平成29年3月1日(水)、3月13日(月)
- ・対象者：看護師、看護補助
- ・場 所：看護部研修室
- ・講 義：「施設内感染防止の正しい知識・技術」「身近にある感染症」
- ・講 師：平野正江（看護部師長 ICT）、早川千亜紀（感染制御センター・感染制御実践看護師）
- ・受講数：32名

○感染防止対策講習会（全教職員対象）

【第1回】 日 時：平成28年7月25日(月) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
内 容：『輸入感染症 デング熱、ジカ熱を含めて』
講 師：春木 宏介 先生（獨協医科大学越谷病院 感染制御部部长）
受講数：907名

【第1回DVD放映会】
日 時：平成28年8月10日(水) 17:10～18:10
13:30～14:30、14:50～15:50、16:10～17:10、17:30～18:30
場 所：関湊記念ホール、
受講数：609名

【第2回】 日 時：平成28年9月27日(火) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
内 容：『最近の結核の話題からー結核の世界的流行と院内感染防止ー』
講 師：石川 克信秀 先生（結核予防会結核研究所 所長）
受講数：943名

【第2回DVD放映会】
日 時：平成28年10月13日(木)
13:30～14:30、14:50～15:50、16:10～17:10、17:30～18:30
場 所：関湊記念ホール
受講数：372名

【第3回】 日 時：平成28年10月20日(木) 17:00～18:10
場 所：関湊記念ホール
内 容：『医療関係者として知らないと怖いB型肝炎』
講 師：室久 俊光 先生（獨協医科大学病院 消化器内科 准教授）
受講数：342名

【第3回DVD放映会】
日 時：平成28年11月9日(水)
13:30～14:30、14:50～15:50、16:10～17:10、17:30～18:30
場 所：臨床医学棟10階講堂
受講数：273名

【第4回】 日 時：平成28年11月1日(火) 17:10～18:10
場 所：関湊記念ホール
内 容：『目の感染症』
講 師：鈴木 重成 先生（獨協医科大学病院 眼科 講師）
受講数：290名

【第4回DVD放映会】
日 時：平成28年11月29日(火)
13:30～14:30、14:50～15:50、16:10～17:10、17:30～18:30
場 所：臨床医学棟10階講堂
受講数：242名

【第5回】 日 時：平成29年1月10日(火) 17:10～17:40
場 所：関湊記念ホール
『教職員受講必須講習会』

演題①：『ノロウイルスの事例報告と感染拡大防止に向けて』
演者①：福島 篤仁 先生（感染制御センター 副センター長）
演題②：『院内感染拡大防止のために全職員で取り組むべきこと』
演者②：早川 千亜紀（感染制御センター・感染制御実践看護師）
受講数：1,161名

【第5回DVD放映会】

日時：平成29年1月16日(月)～1月18日(水)
13:30～14:10、15:30～16:10、17:00～17:40
場所：臨床医学棟10階講堂
受講数：991名

○平成28年度 DVD視聴会

視聴者数：981名

○部署別講習会

【放射線部対象講習会】

1回目 日時：平成28年5月24日(火)、6月7日(火) 17:30～18:30
場所：臨床医学棟10階講堂
内容：講義「放射線撮影業務における感染症対策」
講師：早川千亜紀（感染制御センター・感染制御実践看護師）
受講数：71名

2回目 日時：平成28年12月21日(水) 17:30～
場所：教育医療棟6階シミュレーション講義室1
内容：講義「経路別予防策について」
講師：早川千亜紀（感染制御センター・感染制御実践看護師）
受講数：26名

【委託業者対象講習会】

- ・内容：講義「インフルエンザ対策・ノロウイルス対策、空調管理」
- ・日時：平成28年12月5日(月)～12月9日(金)
10:30～、15:00～ 各30分間
- ・場所：教育医療棟7階会議室
- ・講師：早川千亜紀（感染制御センター・感染制御実践看護師）
松浦美和（看護部師長・感染制御実践看護師）
島山享美（看護部主任・感染制御実践看護師）
香取三奈（看護部・感染管理認定看護師）
山崎晃代（看護部・感染制御実践看護師）
- ・受講数：335名

【にじいろきっぷ】

- ・内容：講義「排泄物の処理と対応」
- ・日時：平成28年9月29日(木) 10:30～11:30
- ・場所：にじいろきっぷ
- ・講師：早川千亜紀（感染制御センター・感染制御実践看護師）
- ・受講数：5名

【病棟勉強会】

- ・内容：講義「知っておくと便利な臨床微生物」
- ・日時：平成28年10月25日(火) 17:00～
- ・場所：4階西病棟 カンファレンスルーム
- ・講師：岡本友紀（感染制御センター兼務・感染制御認定臨床微生物検査技師）
- ・受講数：20人程度

○新入職者オリエンテーション（平成29年度4月採用予定者）

- ・日 時：平成29年3月10日(金) 10:30~11:20
- ・場 所：教室棟 120番教室、
- ・講 師：早川千亜紀(感染制御センター・感染制御実践看護師)
- ・受講数：112名

- ・日 時：平成29年3月17日(金)
- ・場 所：大学会議室No.2 13:10~14:00
- ・講 師：松浦美和(看護部師長・感染制御実践看護師)
- ・受講数：8名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (○有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 感染症起因菌検出時に臨床検査センターから主治医および感染制御センターへその都度報告される。その感染症の届出を要するものについて、速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。
 - また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。
 - 全ての職員に配付している医療安全管理マニュアル(ポケット版)に感染症の届出の手順を明記している。
 - 職員に対して周知・伝達が必要な情報は、職員専用デジタルサイネージに掲載し情報提供をしている。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： ① 副作用被害救済制度と今後の医薬品安全管理について ② 人はなぜ薬物依存症になるのか ～がん診療に携わる医療者が知っておくべき薬物依存の知識～	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 業務の主な内容： ○手順書の内容 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）、院内製剤、未承認・適応外および禁忌等の使用について。 ○実施状況 手順書に従って業務を行なっているか、担当の薬剤師が各部署の実施状況を、チェック表をもとに、最低1年に1回調査する。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ○添付文書 ・ IF(インタビューフォーム) ・ 製薬メーカー医薬品情報センター ・ 文献 ○製薬メーカーMR ・ 製薬企業ホームページ ・ PMDAからの情報 ・ 行政からの通知文書 ○取引卸からの情報 ・ 取引卸のホームページ ・ インターネット情報 ・ 未承認等の医薬品の使用の情報の収集 未承認等の医薬品の使用の際には、「新規医療技術等管理部門」に届け出る。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①新規自動注射剤調剤機(ピッキングマシン)の導入と注射剤供給方法の変更により、「注射剤の一施行毎の供給」を全病棟で開始。 ②上記供給の監査工程では、全注射剤(アンプル、バイアル、輸液など)を一本ずつバーコードリーダーで注射箋と照合する方法に変更した。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 5 1 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">製造販売業者による除細動器研修会 2 回臨床工学部による病棟単位の人工呼吸器勉強会（取扱説明等） 2 9 回臨床工学部による人工心肺装置及び補助循環装置勉強会（取扱説明等） 3 回臨床工学部による血液浄化装置勉強会（取扱説明等） 3 回製造販売業者による閉鎖式保育器研修会（取扱説明等） 2 回製造販売業者による診療用高エネルギー放射線発生装置勉強会（取扱説明等） 5 回製造販売業者による診療用放射線照射装置勉強会（取扱説明等） 7 回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">保守点検記録表に基づく点検の実施保守点検記録表の保管・管理	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療機器の安全使用のために必要な不具合情報や安全性情報等を、製造販売業者等から収集し、病院長及び医療機器安全管理責任者へ報告するとともに、関連部署へ周知徹底医療機器の添付文書・取扱説明書等の保管・管理	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号から第 1 5 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・責任者の資格（○医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>当院では、医療安全管理を担う部門として平成 14 年 10 月 1 日に「医療安全管理部（現；医療安全推進センター）」を設置し、副院長（医療安全推進担当）が当該部門長として医療安全推進センター及び医療安全管理委員会に係る業務を統括してきた。今般、特定機能病院承認要件の見直しを受け、上記の者を従来の統括業務に加え、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の安全管理業務全般をも統括する“医療安全管理責任者”として位置づけ、新たに平成 28 年 9 月 1 日付けで人事発令（病院長名）を行った。今後は、医療法施行規則の一部を改正する省令を遵守し、特定機能病院として更なる高度で安全な医療の提供が実施できるよう体制整備に取り組むこととしている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有（6 名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○整理は、DI 業務（Drug Information Services）として医薬品情報担当者を配置し実施している。</p> <p>○周知は、・電子カルテ内に「薬剤部」のページを作り情報周知に役立てている。</p> <p>○採用医薬品については 2 年毎に「医薬品集」を発行し院内医療職へ配布。その間は（追補版を作成し配布）</p> <p>○院内の各部署、診療科より代表者メールを管理し、メーリングリストを作成し配信</p> <p>○院内庶務課より、院内の各部署、診療科へ書面を作成し送付</p> <p>○緊急性の高い緊急安全性情報、安全性情報については情報入手後、前記 2 ルート（メール配信、書面での送付）と共に、電子カルテ薬剤部ページへの掲載。並びに、過去 3 か月に遡り対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。</p> <p>○医薬品・医療機器等安全性情報に掲載された「重要な副作用等に関する情報」についても同様に過去 3 か月に遡り、対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注</p>	

意喚起を行う。また、薬事委員会の席でも報告事項として案内する。

○医薬品の回収命令についても前記同様な対応を実施。

○メーカーによる不良品・事故品の回収情報は、医療安全管理責任者（医療安全推進センター）を通じて病院長へ報告。

○自主回収、製造販売中止などの情報については、院内配置在庫の回収、薬剤部在庫の確認を経て随時実施する。

○院内の「デジタルサイネージ」に、特に重要な案内を掲載している（2回/月）

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

○使用希望の診療科の長は、「医療安全推進センター」内の「新規医療技術等管理部門」に申請してもらい、「未承認新規医薬品評価委員会」または「未承認新規医療機器評価委員会」で審議された後、「新規医療技術等管理部門」で許可、症例把握するシステムを実施。

・担当者の指名の有無（○有・無）

・担当者の所属・職種：

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：医師） 3名

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：薬剤師） 3名

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：看護師） 2名

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：臨床工学技士） 1名

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：事務） 5名

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	○有・無
-----------------------------	------

・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（○有・無）

・規程等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

責任者を1名（医療安全管理部門長）配置し、診療科より2ヶ月に一度責任者に報告してもらう。責任者は規定に定められた事項の遵守状況を確認し、適切でない事例が認められた場合は、当該事例を各部署に通知し、又は研修で取り上げる等して、適切に説明が行われるようにしている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	○有・無
-----------------------	------

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

- ① 診療記録管理委員会への診療情報管理士による入院カルテの点検結果報告と改善要請。
- ② 医師による退院サマリーの作成状況の把握と早期な作成要請。
- ③ 医療クラークによる書類作成等の医師事務補助作業の実施状況の確認。
- ④ 書類のスキャニング及び当該文書等の取扱状況（量）の把握。

⑤ 電子化されていない診療録等の適切な保管スペースの確保と整理。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	○有・無
<p>・所属職員：専従（ 8 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 9 ）名 うち医師：専従（ 0 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 4 ）名 うち薬剤師：専従（ 0 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 3 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容</p> <p>①医療安全対策の検討及び研究に関すること ②医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること ③医療安全対策のための職員に対する指示に関すること ④医療安全対策のために行う提言に関すること ⑤医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること ⑥安全パトロール ⑦その他医療安全対策に関すること</p> <p>※毎日インシデント報告分析支援システムを確認し、不備があればリスクマネージャーに差し戻し、場合によっては電話して状況を確認しており、事例に関するカンファレンスにも出席して、インシデント防止に努めている。</p> <p>※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準をみたしていることについて説明すること。</p> <p>※医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（○有・無）</p> <p>・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（○有・無）</p> <p>・ 活動の主な内容</p> <p>高難度新規医療技術を用いた医療を実施するにあたり、その医療と既存の医療技術を比較し、その優位性や設備状況等を審議する。また、承認された後はその医療を受けた患者の情報</p>	

<p>を後追いし、後遺症等が発生していないかを把握する予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (○有・無) ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (○有・無) 					
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否を決定する部門の状況					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (○有・無) ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (○有・無) ・ 活動の主な内容 高難度新規医療技術を用いた医療を実施するにあたり、その医療と既存の医療技術を比較し、その優位性や設備状況等を審議する。また、承認された後はその医療を受けた患者の情報を後追いし、後遺症等が発生していないかを把握する予定である。 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (○有・無) ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (○有・無) 					
⑨ 監査委員会の設置状況					○有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：平成28年度未開催 ・ 活動の主な内容：平成28年度未開催 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有・○無) ・ 委員名簿の公表の有無 (○有・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 (○有・無) ・ 公表の方法：病院HPに掲載 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
十川 康弘	上都賀総合病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・○無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・○無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 取締役 主筆		医療を受ける者の代表者	有・○無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除

					く。)
平石 秀幸	獨協医科大学 内科学(消化器) 教授		医療に関する 学識経験者	○有・無	その他
秋山 一文	獨協医科大学 精神生物学 教授		医療に関する 学識経験者	○有・無	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年634件(H28.4.1～H29.3.31) ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全部門への報告状況：年136件(H28.4.1～H29.3.31) ・医療安全管理委員会の活動の主な内容 <p>《所掌業務》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療安全対策の検討及び研究に関すること ②医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること ③医療安全対策のための職員に対する指示に関すること ④医療安全対策のために行う提言に関すること ⑤医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること ⑥その他医療安全対策に関すること <p>《具体的業務》</p> <ol style="list-style-type: none"> ① インシデント・アクシデント報告書及び問題(又は問題となりうる)事例届を収集し、事例ごとに分類し、さらに発生要因の分析を行い、事故の防止策を検討する。 ②検討を行った医療安全対策を病院長に報告するとともに、職員に周知し、安全策の具体的方策の指示を行う。 ③医療安全対策のための教育及び研修を行う。 ④医療事故安全対策のためのマニュアルを作成する。 ⑤インシデント・アクシデントの報告は、原因分析から安全対策作成のための大きな教訓となること

から、これらの情報収集が重要となるが、報告者が不利益を被らないよう配慮する。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院への立入り（○有（病院名：慶應義塾大学病院（H28年度））・無）
- ・ 他の特定機能病院からの立入り受入れ（○有（病院名：慶應義塾大学病院（H28年度））・無）
- ・ 技術的助言の実施状況
〈平成28年度指摘事項〉
- ・ 研修における効果測定がミニテスト等になっていないので、今後eラーニング導入をすすめる
といい。
- ・ 赴任者に対する研修について、まとめて実施されているが、着任前にできるだけ速やかにされたい。
- ・ 医療安全部門で、かなりこまごました事を決めなくてはいけない現状を、少ない人数で行っていることから、下部組織としてのワーキンググループが必要と考える。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況
病院1階の地域医療連携センター内に“患者相談窓口”を設置し、専従の医療ソーシャルワーカーを配置している。患者からの相談内容に応じて、医療安全管理を担う「医療安全推進センター」との連携体制を構築している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（○有・無）
- ・ 窓口提供情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（○有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業員への周知の有無（○有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

①平成28年4月 1日（金）午後2時30分から3時30分

（対象者：平成28年度新入教職員・医療従事者・看護師等）

②平成28年4月9日（土）午前10時から11時

（対象者：平成28年度新臨床研修医）

形態：オリエンテーション

講師：①医療安全推進センター 安全管理者 橋本 美雪

②医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人

演題：①「当院での医療安全の取り組みについて」

②「医療安全講習会 臨床研修医」

内 容：「当院の医療安全体制」について解説がなされた。

参加者：① 133名

③ 53名

○第1回 開催日：平成28年5月30日（水）

午後5時30分から午後6時30分

形 態：講習会

講 師：医療福祉相談室 医療ソーシャルワーカー 東野 怜奈 先生

演 題：「これってDV？児童虐待？」

内 容：DVと児童虐待について解説がなされた。

参加者：一般教職員789名

○第2回 開催日：平成28年6月8日（水）

午後5時30分から午後6時30分

形 態：講習会

講 師：①放射線部 今野 智史 氏

②放射線科 教授 楫 靖 教授

演 題：①「眼の水晶体の放射線影響と線量限度に関する最近の動向」

②「医療被ばくに関する基本的な考え方」

内 容：「眼の水晶体の放射線影響」と「医療被ばく」について解説がなされた。

参加者：495名

○第3回 開催日：平成28年6月21日（火）

午後5時30分から6時30分

形 態：講習会

講 師：東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルマネジメント室

上席研究員 看護師 恩田 清美 先生

演 題：医療現場における個人情報の取り扱い

内 容：医療現場における個人情報について解説がなされた。

参加者：738名

○第4回 開催日：平成28年7月7日（木）

午後5時15分から午後6時15分

形 態：講習会

講 師：がん・感染症センター 都立駒込病院

輸血・細胞治療科 森山 昌彦 技師

演 題：「輸血療法の安全管理」

内 容：輸血療法の安全管理について解説がなされた。

参加者：543名

○第5回 開催日：平成28年7月8日（金）

午後5時から6時

形 態：講習会

講 師：①医療安全推進センター 安全管理者 辰元 宗人 先生

②教育支援センター 医事法制研究室 講師 上杉 奈々 先生

演 題：「薬剤に関するインシデント事例の課題と対策」

内 容：薬剤のインシデント事例について解説がなされた。

参加者：445名

○第6回 開催日：平成28年9月12日（月）

午後5時30分から午後6時30分

形 態：講習会

講 師：京都大学 医学部附属病院 医療安全管理室長（検査部 病院教授）

（日本医療安全学会理事）松村 由美 先生

演 題：「インフォームド・コンセントの重要性について『説明と同意』と

『インフォームド・コンセント』は何がどう違うのか？」

内 容：インフォームド・コンセントの重要性について解説がなされた。

参加者：725名

○第6回 開催日：1日目 平成28年10月3日（月）

2日目 平成28年10月11日（火）

3日目 平成28年10月17日（月）

4日目 平成28年10月19日（水）

5日目 平成28年10月20日（木）

6日目 平成29年 3月10日（金）

形 態：講習会（DVD放映会）

講 師：京都大学 医学部附属病院 医療安全管理室長（検査部 病院教授）

（日本医療安全学会理事）松村 由美 先生

演 題：インフォームド・コンセントの重要性について『説明と同意』と

『インフォームド・コンセント』は何がどう違うのか？」

内 容：インフォームド・コンセントの重要性について解説がなされた。

参加者：1日目 180名 2日目 135名 3日目 155名
4日目 109名 5日目 122名 6日目 299名

○第7回 開催日：平成28年9月28日（水）

午後5時から午後6時

形 態：講習会

講 師：薬剤部 部長 本田 雅巳 先生

演 題：「副作用被害救済制度と今後の医薬品安全管理について」

内 容：今後の医薬品管理について解説がなされた。

参加者：222名

○第8回 開催日：平成28年11月21日（月）

午後5時10分～6時10分

形 態：講習会

講 師：①災害医療整備コーディネーター 林 洋克 先生

②救急医学 鍛 良之 先生

③精神神経科 藤平 明広 先生

演 題：①「DMAT ロジスティックチームの活動報告」－熊本地震－

②「日本集団災害医学会災害医療コーディネートサポートチーム活動報告」

③「平成28年熊本地震における DPAT 活動」

内 容：熊本地震における活動について報告がなされた。

参加者：152名

○第9回 開催日：平成29年1月23日（月）

午後5時30分～6時30分

形 態：講習会

講 師：①放射線部 看護師 高山 友子 主任

②広島大学大学院 放射線診断学研究室 栗井 和夫 教授

演 題：①「放射線部における造影 CT 前のチェックポイント」

②「CT,MRI 等の造影検査の安全対策」

内 容：造影検査について報告がなされた。

参加者：167名

○第10回 開催日：平成29年3月16日（木）

午後5時15分～6時15分

形態：講習会

講師：輸血部 篠原 茂 技師

輸血部 高橋 渉 先生

演題：「輸血関連インシデント事例報告」

内容：輸血関連インシデント事例内容、要因、再発防止の取り組みについて解説がなされた。

参加者：92名

○第11回 開催日：平成29年3月22日（水）

午後5時～6時

形態：講習会

講師：①医療安全管理責任者 窪田 敬一 先生

②医療機器安全管理責任者 小野 一之 先生

③医薬品安全管理責任者 本田 雅巳 先生

演題：「特定機能病院の承認要件について」

内容：特定機能病院の承認要件について報告がなされた。

参加者：1404名

○ビデオ視聴

形態：医療安全推進センター管理ビデオ視聴

視聴者数：633名(平成29年5月1日現在)

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

研修会名称；平成28年度医療安全に関するワークショップ

実施日；11月28日（月）、29日（火）、12月2日（金）

主催者；厚生労働省関東信越厚生局

参加者：○副院長（現；病院長（管理者））

○副院長（医療安全管理責任者）

○薬剤部長（医薬品安全管理責任者）

○看護部長

○事務部長

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	○有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 訪問審査受審(3rdG:Ver.1.0) :平成25年10月2日(水)～3日(木)の2日間 認定年月日:平成25年11月17日(認定日より5年間有効)	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	○有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 栃木県保健医療計画(6期計画)に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主な地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やH p、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	○有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院3診療科(心臓・血管内科、循環器・腎臓内科、心臓・血管外科)の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、近年では前立腺センター、再生医療センター及び放射線治療センターを設置するなど、中央部門に18センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者様により分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでいる。	

(様式第8)

獨医大病庶第55号
平成29年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 寺野 彰 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

<p>【平成28年度受講状況】 研修会名称；平成28年度医療安全に関するワークショップ 実施日；11月28日（月）、29日（火）、12月2日（金） 主催者；厚生労働省関東信越厚生局 参加者；○副院長（現；病院長（管理者）） ○副院長（医療安全管理責任者） ○薬剤部長（医薬品安全管理責任者） ○看護部長 ○事務部長</p> <p>【平成29年度受講予定】 研修会名称；平成29年度医療安全に関するワークショップ 実施日；12月4日（月）、5日（火）、8日（金） 主催者；厚生労働省関東信越厚生局 参加者；○病院長（管理者） ○看護部副部長 ○薬剤部副部長 ○事務部次長</p> <p>研修会名称；平成29年度特定機能病院管理者研修 実施日；3月13日（火）、14日（水） 主催者；日本医療機能評価機構 参加者；○副院長（医療安全管理責任者） ○臨床工学部長（医療機器安全管理責任者） ○薬剤部長（医薬品安全管理責任者）</p>

2. 医療安全管理部門の人員体制

<p>・所属職員：専従（8）名、専任（1）名、兼任（9）名 うち医師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（4）名 うち薬剤師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（3）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名</p>

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

現在の医療安全管理部門（医療安全推進センター）の体制としては、上記「2. 医療安全管理部門の人員体制」のとおり、18名（専従者8名、専任1名、兼任者9名）を配置している。ただし、特定機能病院の新承認要件である専従医師、専従薬剤師の配置については未整備の状況である。そのため、現在、当院所属の医師、及び薬剤師の中から、適任と思われる候補者についてリストアップ作業を取り進めており、人選が終了しだい速やかに人事発令（病院長名）のうえ配置予定としている。

発令年月日（予定）；平成30年3月1日付け（専従医師1名、専従薬剤師1名）